

五代伊勢宮遺跡（1）

道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007.1

2007.1

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

五代伊勢宮遺跡(1)

道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2007. 1

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



五代伊勢宮遺跡(1) 第1・2調査区全景（南側から）



五代伊勢宮遺跡(1) 第3調査区全景（北側から）



五代伊勢宮遺跡(1) 第4調査区全景 (南側から)



J-1号住居跡 炉埋設土器



J-3号住居跡 炉全景



D-84号土坑 出土遺物



J-3号住居跡 炉埋設土器

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠久と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

かつて、赤城山南麓の養蚕を支えた風物詩といえる桑畠は消えゆく運命を辿っております。近年、赤城山南麓一帯は産業構造の変化と相まって大規模な圃場整備事業や工業団地、住宅団地造成、道路建設が広範囲に実施されたため数多くの発掘調査が展開されました。

桂萱地区に所在する五代伊勢宮遺跡(1)も赤城山南麓に立地するものであり、すでに調査によって存在が明らかとなっている縄文時代中期中葉の集落の広がりや古墳時代後期から奈良・平安時代にわたる集落を検出することができました。

残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成19年1月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 根岸 雅

例　　言

- 1 本報告書は、道路改良工事に伴って実施した五代伊勢宮遺跡(1)の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 五代南部工業団地遺跡群 五代伊勢宮遺跡(1) 群馬県前橋市五代町1086-1番地
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団(団長 根岸 雅)の指導のもとに委託者 前橋市道路建設課(管理者 高木政夫)の委託を受け、スナガ環境測設株式会社(代表取締役 須永真弘)が実施した。
- 4 調査担当者 鈴木雅浩(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)
　　権田友寿・山口和宏(スナガ環境測設株式会社)
- 5 調査員 戸根浩美(スナガ環境測設株式会社)
- 6 発掘調査期間 平成18年6月20日～平成18年11月30日
- 7 整理期間 平成18年12月1日～平成18年1月12日
- 8 調査面積 3,600m²
- 9 出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
- 10 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設(株)が作成に当たり、原稿執筆…Iについては鈴木雅浩、その他は権田が担当し、遺構・遺物のトレース…山口・板垣 宏、遺物整理・実測…戸根・佐々木智恵子、遺物洗浄・注記・接合…金子正人・須永 豊・小暮・都丸保男、写真整理・内業事務…須永・戸根が担当した。
- 11 発掘調査に参加した方々(敬称略)
　　小暮幸子 平野ミツ子 名塚久枝 片桐澄子 品川浪江 下田和子
　　北爪一郎 小林益二 阿久沢正邦 石原広吉 峰岸 清

凡　　例

- 1 遺跡の略称は、五代伊勢宮遺跡(1) (18C37) である。
- 2 遺構名の略称は、次のとおりである。
　　縄文時代の住居跡…J 古墳へ奈良・平安時代の住居跡…H 握立柱建物跡…B 溝跡…W
　　土坑…D ピット(柱穴)…P (H住居内P5を貯蔵穴とした) 穫穴状遺構…T
　　実測図中の記号 S…石 P…土器
- 3 実測図の縮尺は、次のとおりである。
　　遺跡平面図…1/200・1/300 住居跡・握立柱建物跡…1/60 炉・竈 平面、断面図…1/30
　　土坑…1/60 溝跡…1/60 土器…1/3・1/4 石器・石製品…1/1・1/3・1/5
- 4 本文中の()は推定値、〔 〕は現存値を表す。
- 5 摄図に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋・大胡・渋川・鼻毛石」を使用した。
- 6 各遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点と照合済。
　　基準点X 0, Y 0 グリッド地点を日本測地系 座標値 X = 46,200.000m, Y = -64,700.000m
　　グリッド 4 m間隔。水準点 B.M. …118.00m, 119.50m, 121.50m, 123.50m, 126.00m, 127.50m,
　　129.00m。
- 7 土層注記中の緑は緑まり、粘は粘性とし、強・中・弱・なしの4段階に区分した。
- 8 須恵器断面…■、煤付着…■■■■■を使用した。

目 次

はじめに	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と歴史的環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過	
1 調査方針	5
2 調査経過	5
IV 層序	5
V 検出された遺構と遺物	
1 繩文時代の遺構と遺物	
(1) 住居跡	7
(2) 土坑	8
(3) 墓石遺構	9
2 古墳時代以降の遺構と遺物	
(1) 住居跡	10
(2) 弧穴状遺構	15
(3) 掘立柱建物跡	15
(4) ピット(柱穴)	16
(5) 土坑	16
(6) 溝跡	20
3 まとめ	22

挿 図

第1図 遺跡位置図	vi	第23図 H-17号住居跡	49
第2図 周辺遺跡図	3	第24図 H-18・19号住居跡	50
第3図 グリッド設定図	4	第25図 H-19・20・21号住居跡	51
第4図 基本土層断面図	6	第26図 T-1・2号竪穴状遺構、 B-1号掘立柱建物跡	52
第5図 第1調査区全体図	27	第27図 B-2号掘立柱建物跡	53
第6図 第2調査区全体図	29	第28図 W-2・3・5・6号溝跡断面図	54
第7図 第3調査区全体図	31	第29図 W-7・8号溝跡	55
第8図 第4調査区全体図	33	第30図 D-2・4・50・54・55・ 77~80・82~87号土坑	56
第9図 J-1号住居跡	35	第31図 D-88~96・99~103号土坑	57
第10図 J-2号住居跡	36	第32図 J-1・3号住居跡、 D-84号土坑出土遺物	58
第11図 J-3号住居跡	37	第33図 D-87・96・99・102号土坑、 J-1号住居跡出土遺物	59
第12図 H-1・2号住居跡	38	第34図 J-2号住居跡、 D-86・95・99・102号土坑出土遺物	60
第13図 H-3・4号住居跡	39	第35図 H-1・2号住居跡出土遺物	61
第14図 H-4・5号住居跡	40	第36図 H-3~5号住居跡出土遺物	62
第15図 H-6・7号住居跡	41	第37図 H-7・8・10・13号住居跡出土遺物	63
第16図 H-8号住居跡	42	第38図 H-14~19号住居跡、 D-46・72号土坑出土遺物	64
第17図 H-10・11号住居跡	43		
第18図 H-12号住居跡	44		
第19図 H-13号住居跡	45		
第20図 H-14号住居跡	46		
第21図 H-15号住居跡	47		
第22図 H-16・22号住居跡	48		

表

第1表 周辺遺跡概要一覧表	2	第5表 遺物観察表（縄文時代）	24
第2表 土坑（縄文時代）計測表	8	第6表 石器観察表	24
第3表 ピット計測表	17	第7表 遺物観察表（古墳時代以降）	25
第4表 土坑（古墳時代以降）計測表	19		

写 真 図 版

口絵 第1~4調査区全景、遺構出土遺物	柱建物跡、W-1~4・6~8号溝跡
図版1 第1・2調査区全景	図版8 W-2・3・10号溝跡、D-66・72・54・95・ 99・102号土坑
図版2 第3・4調査区全景	図版9 J-1~3号住居跡、D-84・86・87・95・ 96・99・102号土坑出土遺物
図版3 J-1~3号住居跡、H-1~2号住居跡	図版10 H-1~7号住居跡出土遺物
図版4 H-3~8・10号住居跡	図版11 H-8・10・13・14~19号住居跡、D-46・ 72号土坑出土遺物
図版5 H-11~15号住居跡	
図版6 H-16~22号住居跡	
図版7 T-1・2号竪穴状遺構、B-1・2号掘立	



第1図 遺跡位置図

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、市道42号線（五代南部工業団地）の道路改良工事に伴い実施された。

平成18年4月24日、前橋市長 高木政夫より埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸雅（以下「調査団」という。）に対し発掘調査実施について依頼した。しかし、既に市内数カ所において調査団直営による発掘及び整理調査が実施されており、調査団直営で実施することは困難と判断した。よって、民間調査会社による整理調査を進める方針を決め、前橋市と調査団の間で平成18年5月11日付けで埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を締結した。これに基づき、6月20日付けで、依頼者である前橋市と調査団との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、同日付けで民間調査会社であるスナガ環境測設株式会社 代表取締役 須永真弘との間で委託契約を締結し、発掘調査開始に至る。

なお、遺跡名称「五代伊勢宮遺跡（1）」（市遺跡コード：18C37）の「伊勢宮」は旧地籍の小字名を採用し、名称中の数字（1）は当調査団で今後継続した調査を想定し付したものである。

II 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の立地

遺跡の所在する五代町は、前橋市の中心市街地から北東へ約5kmに位置する。遺跡の北方には大正用水が西から東へ流れ、芳賀東部工業団地西に芳賀西部工業団地がある。前橋市では、「豊かで素晴らしい社会を築く町づくり」を目途に、福祉、教育、文化、環境等の整備拡充を進めている。その施策の一つとして、前橋工業団地造成組合による工業団地や住宅団地の造成があり、昭和35年以来多くの団地造成を行っている。その一つとして、五代南部工業団地がある。団地は、日本百名山の一つ赤城山南麓火山斜面の緩やかで自然豊かな面にある。山麓に源を発する中小の河川が付近を南流し、部分的に開析谷を形成し舌状台地と谷底部を作り、谷と谷の間の丘陵性の台地には、住宅団地や畠地が広がり、谷底部は水田が営まれている。この斜面の末端部は、本遺跡から800m南へ下がった主要地方道前橋赤堀線付近に当り、旧利根川の作った広瀬川低地帯に接し、この付近から関東平野が南に広がっている。

2 歴史的環境

本遺跡の近隣地域では、芳賀工業団地、住宅団地造成事業に伴う遺跡調査が昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけて行われ、芳賀団地遺跡群（芳賀北部団地遺跡、芳賀西部団地遺跡、芳賀東部団地遺跡）として多くの遺構・遺物が報告されている。芳賀北部団地遺跡では縄文時代前期から後期の竪穴住居跡や中期の敷石住居跡、奈良・平安時代の竪穴住居跡や中世の勝沢城跡の一部を検出した。芳賀西部団地遺跡では、縄文時代前期の竪穴住居跡や配石遺構を検出した。また、昭和10年の上毛古墳総覧の記載漏れ古墳を32基検出し、芳賀地区には集中して100基近くの古墳が確認された。芳賀東部団地遺跡では、縄文時代前期の竪穴住居跡や中期末から後期前半の敷石住居が検出されている。その他報告されている遺跡から芳賀北曲輪遺跡では、縄文時代前期の住居跡や中

期末から後期前半の敷石住居、倉本遺跡は弥生時代の竪穴住居跡、端気遺跡群Ⅰでは方形周溝墓などが検出されている。小神明遺跡群Ⅱ、西田遺跡からは古墳時代後期の円墳や帆立貝式古墳の検出があった。檜峯遺跡では奈良・平安時代の竪穴住居跡とともに奈良三彩小壺（前橋指定重要文化財）が検出された。鳥取福蔵寺遺跡では绳文時代の竪穴住居跡、古墳から奈良・平安時代の竪穴住居跡や製鉄遺構が、鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡では繩文時代の竪穴住居跡、古墳から奈良・平安時代の竪穴住居跡や細石刃文化石器群（旧石器）が検出されている。本遺跡を含めた五代南部工業団地遺跡群では平成12年度から16年度に渡り発掘調査し、繩文時代前期・中期の竪穴住居跡や土坑、古墳時代前期から後期の竪穴住居跡・方形周溝墓・周溝状遺構・土坑、奈良・平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・ピット・溝跡・井戸跡等が検出され、中・近世では、地下式土坑・土坑・溝跡・井戸跡等が検出されている。

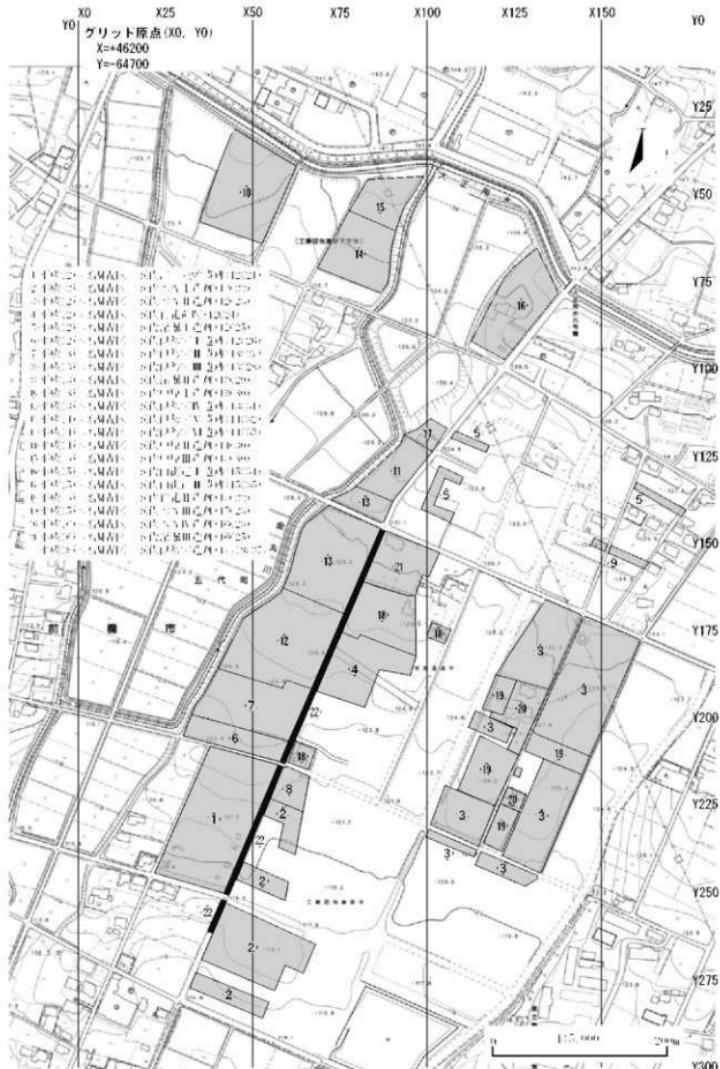
このように芳賀地区の遺跡を見ると、旧石器時代から繩文、古墳、奈良・平安、中・近世の遺構が検出され、ほとんどの時代にわたり人々の生活の痕跡が見られる地域である。

第1表 周辺遺跡概要一覧表

No	遺跡名	概要	No	遺跡名	概要
1	五代伊勢宮道跡(II)	本道跡	21	五代竹花道跡	繩文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡
2	芳賀北屋根掛地遺跡	繩文住居跡、奈良・平安住居跡	22	五代深堀Ⅰ道跡	繩文住居跡、平安住居跡
3	芳賀西屋根掛地遺跡	繩文住居跡、古墳	23	五代伊勢宮Ⅰ道跡	古墳住居跡、奈良・平安住居跡、他
4	芳賀東屋根掛地遺跡	古墳～奈良・平安住居跡	24	五代伊勢宮Ⅱ道跡	繩文住居跡、古墳住居跡、奈良住居跡
5	檜峯遺跡	古墳～奈良・平安住居跡	25	五代伊勢宮Ⅲ道跡	繩文土坑、平安住居跡、他
6	小神明遺跡群Ⅰ	繩文住居跡、奈良・平安住居跡	26	五代深堀Ⅱ道跡	繩文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡
7	小神明遺跡群Ⅱ	繩文住居跡(敷石)、古墳住居跡、九科遺跡	27	五代中原Ⅰ道跡	繩文住居跡、古墳・平安住居跡
8	西田遺跡	奈良・平安住居跡	28	五代伊勢宮Ⅳ道跡	繩文住居跡・土坑、平安住居跡
9	端気遺跡群Ⅰ・Ⅱ	繩文住居跡、弥生形周溝墓、古墳住居跡	29	五代伊勢宮Ⅴ道跡	繩文住居跡・土坑、古墳～奈良・平安住居跡
10	倉本遺跡	弥生形周溝墓	30	五代伊勢宮Ⅵ道跡	繩文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡
11	小神明遺跡群Ⅱ 大明神遺跡	古墳住居跡	31	五代中原Ⅱ道跡	繩文住居跡、古墳住居跡、他
12	芳賀北曲輪遺跡	繩文住居跡、古墳	32	五代中原Ⅲ道跡	古墳住居跡、土坑、柱穴、
13	芳賀北原遺跡	古墳住居跡、奈良・平安住居跡	33	五代山街道Ⅰ道跡	繩文住居跡、古墳住居跡、平安住居跡
14	五代檜峯道跡	古墳住居跡	34	五代山街道Ⅱ道跡	繩文土坑、他
15	鳥取福蔵寺遺跡	古墳住居跡、近世埋葬施設	35	五代竹花Ⅰ道跡	繩文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡
16	鳥取福蔵寺遺跡	繩文住居跡、	36	五代木樋田道跡	古墳～奈良・平安住居跡
17	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	古墳～奈良・平安住居跡	37	五代木樋田Ⅳ道跡	古墳～奈良・平安住居跡
18	五代江戸川屋敷遺跡	古墳～奈良・平安住居跡、他	38	五代深堀Ⅲ道跡	繩文住居跡・土坑、
19	五代木樋Ⅰ道跡	繩文・古墳住居跡、奈良・平安住居跡	39	新田塚古墳	円墳
20	五代木樋Ⅱ道跡	繩文瓦刀遺構、古墳～奈良・平安住居跡	40	檜峯古墳	円墳
			41	桂正田福塚古墳	円墳か
			42	東公田古墳	墳墓
			43	オブ塚古墳	前方後円墳
			44	オブ塚西古墳	墳丘無



第2図 周辺遺跡図



第3図 グリッド設定図

III 調査の方針と経過

1 調査方針

調査実施に際しては、調査区域を4ブロックに区切り南端から第1調査区、北端を第4調査区と称し、グリッドを西から東へX1、X2、X3、……、北から南へY1、Y2、Y3、……を基本として（グリッド原点X0、Y0は、日本測地系 座標値X=46,200,000、Y=-64,700,000）調査区域に4m毎にグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また、水準は第1調査区から南西へ150mほどの場所にある2級基準点Na17（世界測地系新点番号41）からの基準標高に基づき測設し、各調査区の高低差が大きいため合計7ヶ所設置した。

図面作成は原則として、1/10、1/20、1/40、1/100等の縮尺を使用し、平板・造り方による細部測量で作図を行った。また、造構等の写真撮影は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を使用した。

2 調査経過

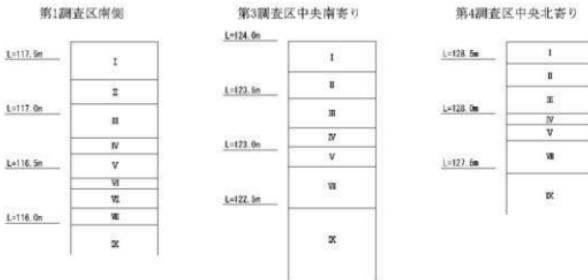
調査は、前橋市教育委員会の内部組織である調査団の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。平成18年6月28日、調査範囲の確認を市役所道路建設課及び調査団業務監督員と調査区域の範囲や注意事項の確認を行い、南端の第1調査区から開始し北端の第4調査区へ調査し、各ブロックの調査が終わりしだい埋め戻しすることとなった。

6月29日より現地調査事務所設営、機械及び資材を搬入した。また、調査区域と道路との境界には安全対策用ネットフェンスやバリケード、回転燈、チューブライトを設置した。

第1・2調査区の表土掘削は7月3日から重機により表層のアスファルトとその下層の砕石を分けて除去し、調査団業務監督員の指導を得て表土層掘削を行うとともにジョレン掛査により造構確認を行った。7月26日から移植ゴテによる住居跡、ピット、土坑の覆土除去作業を開始し、グリッド杭、水準点測設を行い造構図面作成作業を進め9月28日に終了し、調査団の検査後ただちに埋め戻しを行った。第3調査区は9月16日から表土掘削が始まり11月13日に検査を受け、11月18日に調査が終了し、11月25日埋め戻し作業を終了した。第4調査区は11月8日から表土掘削が始まり12月15日に検査を受け、12月18日に調査が終了し、12月22日埋め戻し作業が終了し、全調査区が完了した。

IV 層序

本遺跡の基本土層は、第1調査区内の南側、第3調査区の中央南寄りと第4調査区の中央北寄りの三箇所に入れた深掘りトレッチをもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また、地点により堆積状態の差異はあるが基本的に第4図に示したとおりである。



第4図 基本土層断面図

- I. 明黄褐色土層 (10YR6/8) 中縮粘 白色軽石粒 ϕ 1～3mmを7%含む
 - II. 黄褐色土層 (10YR5/8) 中縮粘 白色軽石粒 ϕ 1～3mmを3%含む
 - III. 黄褐色土層 (10YR5/6) 中縮弱粘 白色軽石粒 ϕ 1mmを1%、As-BPをブロック状に多く含む
 - IV. 黄褐色土層 (10YR5/8) 中縮弱粘 白色軽石粒 ϕ 1mmを1%、As-BPを多く、V₁を20%含む
 - V. 銛い黄褐色粘質土層 (10YR5/4) 強縮粘 灰白色軽石粒 ϕ 1～7mmを3%含む
 - VI. 褐色粘質土層 (10YR4/4) 強縮粘 灰白色軽石粒 ϕ 1～5mmを2%含む
 - VII. 銛い黄褐色粘質土層 (10YR4/3) 強縮粘 灰白色軽石粒 ϕ 1～5mmを3%含む
 - VIII. 黄褐色粘質土層 (10YR5/6) 強縮粘 灰白色軽石粒 ϕ 1～5mmを1%含む
 - IX. 褐色粘質土層 (10YR4/6) 強縮中粘 灰白色軽石粒 ϕ 1～5mmを少量含む
- * As-BP: 浅間板鼻 褐色軽石 (1.7～2.1万年前)

V 検出された遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

(1) 住居跡

J-1号住居跡〔第9図、図版3〕

位置 X65・66、Y190・191グリッド（第3調査区）重複 西側をW-7号溝に切られている。形状 残丸長方形を呈す。規模 長軸5.32m、短軸5.02m、確認面から床面までの壁高7～22cm。面積 21.89m²。主軸方向 N-40°-E。床面 住居中央付近が窪んだ、すり鉢状を呈する。床面標高は、124.78～124.93m。柱穴 8基検出。P1は長径38cm、短径36cm、深さ25cmの円形。P2は長径33cm、短径32cm、深さ32cmの円形。P3は長径32cm、短径24cm、深さ30cmの梢円形。P4は長径[28]cm、短径[28]cm、深さ40cmの（円形）。P5は長径48cm、短径39cm、深さ27cmの梢円形。P6は長径33cm、短径31cm、深さ20cmの円形。P7は長径30cm、短径30cm、深さ58cmの円形。P8は長径30cm、短径28cm、深さ47cmの円形。炉跡 中央からやや北東寄りに位置し、石囲いの中に埋設土器を配する。石は、強い火を受けたのか亀裂が入っていたり割れている。石の内側は70×50cmの広さがあり、南側石囲いの遺存状態が悪かった。埋設土器は中央から北西側に設置している。主軸方向はN-23°-E。時期 埋土や出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。遺物 上層から床面にかけて多くの土器片が出土したが、完形資料となり得る個体は少ない。掲載した遺物は、炉跡埋設土器1点、石鏃1点、多孔石1点、敲石・磨台1点、敲石1点など計5点。

J-2号住居跡〔第10図、図版3〕

位置 X82・83、Y151・152グリッド（第4調査区）重複 東側半分をW-4号溝に切られ、西側の壁を一部分搅乱されているため、形状は推定し規模は現存値を記した。形状（円形）を呈す。規模 長軸5.80m、短軸[3.50]m、確認面から床面までの壁高11～24cm。面積 [16.61]m²。主軸方向 N-38°-E。床面 壁際な床面で、壁際より中央付近が窪んでいるすり鉢状を呈する。床面標高は、129.24～129.40m。柱穴 3基検出。P1は長径63cm、短径43cm、深さ72cmと66cmの2穴あり作り替えがあったと思われる。P2は長径48cm、短径41cm、深さ50cmの梢円形。P3は長径52cm、短径47cm、深さ54cmの梢円形。4本柱の住居跡と考えられるが、P4はW-4により搅乱され検出できなかった。炉跡 中央から北西寄りに位置し、周囲の床面より2～5cmの窪みをもつ地床炉を検出した。焼土範囲は長径78cm、短径72cmの不整形を呈する。また、炉の南側に規模は小さいが焼けた窓みを確認した。時期 埋土や出土遺物から、縄文時代中期中葉と考えられる。遺物 上層から床面にかけて多くの土器片が出土したが、完形資料となり得る個体は少ない。掲載した遺物は、磨石1点、凹石1点、石鏃1点、など計3点。

J-3号住居跡〔第11図、図版3〕

位置 X73、Y175・176グリッド（第4調査区）重複 南西側半分をH-15号住居跡に切られ、南東側が調査区外に入るため、形状や規模は推定値を記した。形状（残丸方形）を呈す。規模 長軸(4.10)m、短軸(3.90)m、確認面から床面までの壁高4～5cm。面積 (13.91)m²。主軸方向 N-3°-E。床面 やや南へ傾斜する床面であった。床面標高は、126.68～126.82m。柱穴 3基検出。P1は長径31cm、短径30cm、深さ76cmの円形。P2は長径32cm、短径31cm、深さ96cmの円形。P3は長径37cm、短径34cm、深さ96cmの円形。4本柱の住居跡と考えられ

るが、P4は調査区外に入るため検出できなかった。炉跡 中央からやや東寄りに位置し、上端直径60cm、下端直径44cm、器高26~28cmの底部をカットされた加曾利E 3式の埋設土器が設置されていた。土器上端の外側には、口縁を補強するように、手の平ほどの大さで扁平な石を配している。石の中でも数個は扁平に加工した痕跡が見られた。時期 埋土や出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。遺物 土器片が少量出土したが、資料となり得る個体は掲載した埋設土器1点のみであった。

(2) 土 坑 [第30・31図、図版8]

縄文時代の土坑は、40基検出した。特に北側の第4調査区で半分以上の26基を検出した。形状は、きれいな袋状を呈する土坑は6基で、台形のものが多く他に、垂直に下がったものや皿状のものを検出した。また、重複しているものも検出した。土器や石器を伴う土坑は多く検出されたが、完形や完形に近い土器を出土した土坑は数少なく、時期は縄文時代中期中葉であった。なお、各縄文土坑の計測値は第2表にまとめた。

第2表 土坑(縄文時代)計測表

() 推定値、[] 現存値

土坑番号	遺構位置 (グリッド)	形 状		規 模 (cm)		遺 物		備 考 (重複、その他)	
		平 面	断 面	長 径	短 径	深 底	土 器	土器片	
D-1	X37, Y260	(梢円形)	台形	120	[65]	40			
D-2	X37, Y259	円形	台形	93	89	36	★ 1	▲ 1	
D-4	X36, Y259	円形	袋状	110	105	66			
D-17	X43, Y243	円形	台形	120	120	52			D-19, P-33
D-19	X43, Y242	梢円形	皿状	108	92	47			D-17
D-20	X44, Y242	円形	台形	145	134	57			P-34
D-50	X60, Y207	(円形)	直下り	98	[66]	30	★ 1		W- 4
D-51	X60, Y205	円形	台形	50	47	33			W- 2・3
D-53	X63, Y197	(梢円形)	台・皿	(65)	(50)	37			根の搅乱あり
D-54	X64, Y195	梢円形	袋状	152	124	71	★87		B- 2
D-55	X64, Y195	円形	台形	127	120	49		▼ 3	
D-62	X68, Y187	円形	台・皿	100	100	25			
D-71	X71, Y180	(梢円形)	皿状	100	(90)	20			
D-73	X68, Y185	(梢円形)	台・直下	[110]	[45]	64			D-64, W- 7
D-77	X74, Y171	梢円形	台・皿	172	113	43	★ 2		D-82, W-10
D-78	X74, Y174	梢円形	台・直下	111	102	38			D-79・80, W- 9
D-79	X74, Y173	梢円形	台形	146	120	53			D-78・80, W- 9・10
D-80	X74, Y173	(梢円形)	不明	[156]	(135)	57			D-78・79, W- 9・10
D-82	X74, Y171	(梢円形)	台形	[132]	[100]	46			D-77, W-10
D-83	X77, Y166	円形	台形	76	74	25			
D-84	X76, Y165	円形	台・直下	98	96	34	■ 2	★ 2	▼ 1
D-85	X77, Y164	円形	台・皿	88	81	21			
D-86	X77, Y163	梢円形	袋状	138	118	75	★71	▼ 2	D-87

() 推定値、〔 〕現存値

土坑番号	遺構位置 (グリッド)	形 状		規 模 (cm)			遺 物			備 考 (重複、その他)
		平 面	断 面	長 径	短 径	深 さ	土 器	土器片	石 器	
D-87	X77, Y163	(楕円形)	袋状	(132)	(117)	51		★1		D-86
D-88	X78, Y162	楕円形	台形	110	98	32		★8		
D-89	X79, Y162	円形	直下り	92	90	32		★2		
D-90	X79, Y161	円形	直下り	118	116	26				
D-91	X79, Y161	円形	台・皿	95	90	27		★1	▼2 ▲12	
D-92	X80, Y161	円形	直下り	88	85	35		★1	▼1	
D-93	X79, Y161	楕円形	皿状	82	68	31		★2		
D-94	X80, Y159	円形	袋状	125	123	54		★3	▼1	
D-95	X81, Y155	(円形)	台形	(93)	88	37		★3	▲187	
D-96	X81, Y155	円形	台形	84	78	21		★11		
D-97	X81, Y155	楕円形	台形	70	59	21				
D-98	X82, Y153	円形	台形	56	53	34				
D-99	X84, Y149	楕円形	台形	110	98	26		★多量	▼3 ▲36	
D-100	X84, Y149	円形	台形	110	108	15		★9		
D-101	X84, Y148	楕円形	台形	150	133	18		★40	▼1	
D-102	X84, Y148	円形	台形	97	93	53		★3	▼1	
D-103	X70, Y177	(円形)	袋状	130	124	79				H-13

■は、観察表に記載されている土器で、数値は個体数を表す。★は、土器片が出土したことを表す。

▼は、石器が出土したことを表し、▲は焼け石が出土したことを表す。

(3) 集石遺構〔第8図〕

X79, Y161グリッドに位置し、長径100cm、短径70cm、深さ10cmの楕円内に直径30～80cmの石を24点出土した。遺構確認まで下げた時点で石の上端が確認された。石は、火を受け焼けた痕跡があるが周囲には焼土や炭化物など確認できなかった。縄文時代の土坑から出土している焼け石に状況が似ていることから、縄文時代に使用されたものと思われる。

2 古墳時代以降の遺構と遺物

(1) 住居跡

全調査区域で古墳時代以降の竪穴住居跡は、21軒検出された。古墳時代の竪穴住居跡は、第2調査区で4軒（H-2・3・4・6）、第3調査区で4軒（H-8・10・11・12）、第4調査区で1軒（H-17）合計9軒検出された。奈良・平安時代の竪穴住居跡は第1調査区で1軒（H-1）、第2調査区で2軒（H-5・7）、第4調査区で9軒（H-13・14・15・16・18・19・20・21・22）合計12軒検出された。

H-1号住居跡〔第12図、図版3〕

位置 X38、Y256グリッド（第1調査区）形状 長方形を呈す。規模 長軸3.30m、短軸(2.70)m、確認面から床面までの壁高4～6cm。面積 [7.85]m² 主軸方向 N-107°-E 床面 平坦と思われるが擾乱が多く一部分硬化面が残っていた。床面標高は、117.66mであった。柱穴 検出されなかった。貯蔵穴(P5) 南東隅に検出。長径[52]cm、短径[25]cm、深さ[14]cmで形状は不明。竈 東壁の南寄りに位置する。主軸方向は不明で、灰かき穴の一部分を確認できた。時期 埋土や出土遺物から、9世紀後半と考えられる。遺物 土師器の塊片、須恵器の塊・甕の小片など出土量は少なかった。掲載した遺物は、須恵器の塊1点。

H-2号住居跡〔第12図、図版3〕

位置 X42、Y247グリッド（第2調査区）形状 長方形を呈す。規模 長軸5.30m、短軸4.90m、確認面から床面までの壁高24～30cm。面積 [15.36]m² 主軸方向 N-67°-E 床面 平坦で堅緻な床面で、張り床の厚さは6～24cm、床面標高は、118.60mであった。壁周溝は全周する。柱穴 4基検出した。P1 北東隅にありP4に接する。長径(43)cm、短径40cm、深さ56cmの楕円形。P2 北西隅、長径49cm、短径40cm、深さ72cmの楕円形。P3 南西隅、長径63cm、短径55cm、深さ70cmの楕円形。P4 北東隅にありP1に接する。長径45cm、短径(40)cm、深さ71cmの楕円形。貯蔵穴(P5)・竈 調査区外に入ると思われ検出されず。重複 北側でT-1号竪穴状遺構と重複しており、新旧関係は本遺構→T-1の順である。時期 埋土や出土遺物から、6世紀後半と考えられる。遺物 土師器の环・高环・甕・懶やコモ編み石など出土量は多かった。掲載した遺物は、土師器の环2点、高环2点、小型甕2点、長胴甕3点、懶1点など合計10点。

H-3号住居跡〔第13図、図版4〕

位置 X43、Y244・245グリッド（第2調査区）形状 長方形を呈す。規模 長軸5.37m、短軸4.66m、確認面から床面までの壁高25～38cm。面積 [17.53]m² 主軸方向 N-64°-E 床面 平坦で床面には土器を小さく碎いたものがまかれていた。張り床の厚さは4～23cm、床面標高は、118.88mであった。壁周溝は全周する。柱穴 3基検出した。P1 北西隅、長径53cm、短径47cm、深さ81cmの楕円形。P2 南西隅、長径66cm、短径51cm、深さ73cmの楕円形。P3 北東隅、長径56cm、短径45cm、深さ63cmの楕円形。貯蔵穴(P5)・竈 調査区外に入ると思われ検出されず。重複 南西隅でD-15号土坑と重複しており、新旧関係は本遺構→D-15の順である。時期 埋土や出土遺物から、6世紀後半と考えられる。遺物 土師器の环・甕、コモ編み石などが多く出土した。掲載した遺物は、土師器の环2点、甕1点など3点。

H-4号住居跡〔第13・14図、図版4〕

位置 X45、Y239・240グリッド（第2調査区）形状（方形）を呈す。規模 長軸6.20m、短軸(6.20)m、確認面から床面までの壁高17~26cm。面積 [21.17]m² 主軸方向 N-63°-E 床面 平坦で堅緻な床面。床面標高は、119.60m。壁周溝は全周する。柱穴 3基検出した。P1 西側、長径46cm、短径42cm、深さ80cmの楕円形。P2 南側、長径(47)cm、短径(35)cm、深さ75cmの（楕円形）。P3 北側溝、長径65cm、短径55cm、深さ78cmの楕円形。貯蔵穴(P5) 南隅で竈の南東側、長径(54)cm、短径(37)cm、深さ58cmの（楕円形）。竈 西壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-110°-Wで、全長83cm、最大幅114cm、焚口部幅42cm。両袖に長胴甕と天井にも長胴甕を使用し構築していたと思われる。時期 埋土や出土遺物から、7世紀前半と考えられる。遺物 土師器の壺・高坏・甕、コモ編み石など出土量は多かった。掲載した遺物は、土師器の長胴甕4点・高坏1点など5点。

H-5号住居跡〔第14図、図版4〕

位置 X47・48、Y234・235グリッド（第2調査区）形状 長方形を呈す。規模 長軸4.68m、短軸3.05m、確認面から床面までの壁高0~5cm。面積 [12.97]m² 主軸方向 N-65°-E 床面 北側でわずかに壁と床面が確認できるが、南側は搅乱され掘り方が残っていた。焼土、炭化物が多く残っていた。柱穴 2基検出した。P1 北側壁際、長径29cm、短径16cm、深さ16cmの楕円形。P2 中央から東寄り、長径26cm、短径23cm、深さ22cmの楕円形。貯蔵穴・竈 調査区外に入るとと思われ検出されず。時期 埋土や出土遺物から、8世紀初頭と考えられる。遺物 土師器の壺・甕の小片など出土量は少なかった。掲載した遺物は、土師器の壺1点、甕1点など合計2点。

H-6号住居跡〔第15図、図版4〕

位置 X51、Y223グリッド（第2調査区）五代江戸屋敷遺跡で報告されているH-22号住居跡の東側未調査部分を検出した。形状、その他は住居跡全体を計測した。形状 長方形を呈す。規模 長軸(4.10)m、短軸3.70m、確認面から床面までの壁高0~2cm。面積 [12.64]m² 主軸方向 N-79°-E 床面 搅乱が多く、掘り方の残っている部分が多い。床面標高は、121.64m。柱穴・貯蔵穴 検出されなかつた。竈 東壁のやや南寄りに位置する。搅乱されているため規模その他不明であるが灰かき穴の一部を確認した。時期 埋土や出土遺物から、6世紀後半と考えられる。遺物 竈付近から土師器の壺・甕などの破片が少量出土した。掲載できる遺物はなかつた。

H-7号住居跡〔第15図、図版4〕

位置 X55、Y216グリッド（第2調査区）形状 方形を呈す。規模 長軸3.40m、短軸[2.00]m、確認面から床面までの壁高14~25cm。面積 [5.57]m² 主軸方向 N-97°-E 床面 平坦で堅緻な床面。床面標高は、121.96m。壁周溝は全周する。柱穴 検出されなかつた。貯蔵穴・竈 W-4に搅乱され検出できなかつた。重複西側をW-2・3号溝、東側をW-4号溝と重複しており、新旧関係は本造構→W-2・3→W-4の順である。時期 埋土や出土遺物から、8世紀前半と考えられる。遺物 土師器の壺、甕片など少量出土した。掲載した遺物は、土師器の壺2点、甕1点など3点。

H-8号住居跡〔第16図、図版4〕

位置 X61、Y200グリッド（第3調査区）五代伊勢宮II遺跡で報告されているH-1号住居跡の東側未調査部分を検出した。形状、その他は住居跡全体を計測した。形状 長方形を呈す。規模 長軸7.93m、短軸7.50m、確認面から床面までの壁高37~73cm。面積 54.36m² 主軸方向 N-98°-W 床面 平坦で堅緻な床面で、大量の炭化物を検出し、床面が赤く焼けた部分も検出した。床面標高は、123.37m。壁周溝は、北西隅と南西隅の一部を除き巡っている。柱穴 今回の調査では2基検出した。P1 西側中央よりやや北側、長径25cm、短径25cm、深さ

18cmの円形。P2 南東隅、長径55cm、短径49cm、深さ76cmの楕円形。H-1号住居跡で報告済みのP-1、P-3、P-6と今回調査のP2が主柱穴と思われる。貯蔵穴・竈 五代伊勢宮II遺跡H-1号住居跡を参照。時期 埋土や出土遺物から、6世紀後半と考えられる。遺物 土師器の壊・甕片、コモ編み石など出土量は少なかった。掲載した遺物は、土師器の壊1点。

H-9号住居跡は、欠番。

H-10号住居跡 [第17図、図版4]

位置 X66、Y191グリッド (第3調査区) 形状 長方形を呈す。規模 長軸[4.50]m、短軸[4.20]m、確認面から床面までの壁高53~60cm。面積 [9.66]m² 主軸方向 N-73°-W 床面 平坦で堅緻な床面。床面標高は、124.42m。壁周溝は、全周する。柱穴 1基検出した。P1 北西側、長径40cm、短径33cm、深さ54cmの楕円形。貯蔵穴・竈 調査区外に入ると思われ検出されなかった。時期 埋土や出土遺物から、7世紀前半と考えられる。遺物 土師器の壊・甕・長胴甕・小型甕、コモ編み石や砥石などの破片が少量出土した。掲載した遺物は、土師器の壊1点、甕1点、長胴甕1点など3点。

H-11号住居跡 [第17図、図版5]

位置 X70、Y183グリッド (第3調査区) 五代竹花遺跡で報告されているH-9号住居跡の西側未調査部分を検出した。形状、その他は住居跡全体を計測した。形状 正方形を呈す。規模 長軸4.45m、短軸5.40m、確認面から床面までの壁高58~62cm。面積 (29.23)m² 主軸方向 N-72°-E 床面 平坦で堅緻な床面。床面標高は、125.32m。壁周溝は、今回の調査では北西隅の一部を除き巡っている。柱穴 今回の調査で1基検出した。P1 北西側、長径(60)cm、短径55cm、深さ44cmの楕円形。貯蔵穴・竈 五代竹花遺跡H-9号住居跡を参照。時期 埋土や出土遺物から、6世紀後半と考えられる。遺物 土師器の壊・甕の小片を少量出土した。掲載できる遺物はなかった。

H-12号住居跡 [第18図、図版5]

位置 X70、Y180グリッド (第3調査区) 形状 正方形を呈す。規模 長軸4.41m、短軸4.38m、確認面から床面までの壁高36~57cm。北西側が調査域外に入る。面積 (18.65)m² 主軸方向 N-109°-E 床面 平坦で堅緻な床面。床面標高は、125.85m。壁周溝は全周する。柱穴 3基検出した。P1 南西側、長径45cm、短径35cm、深さ57cmの楕円形。P2 南東側、長径42cm、短径38cm、深さ43cmの楕円形。P3 北東側、長径50cm、短径38cm、深さ49cmの楕円形。貯蔵穴(P5) 南東隅で竈の南側、長径58cm、短径52cm、深さ81cmの楕円形。竈 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-109°-Eで、全長95cm、最大幅83cm、焚口部幅30cm。竈中央からやや北寄りに支脚石を検出した。時期 埋土や出土遺物から、6世紀代と考えられる。遺物 土師器の壊・甕の小片など出土量は非常に少なかった。掲載できる遺物はなかった。

H-13号住居跡 [第19図、図版5]

位置 X71、Y177グリッド (第4調査区) 五代伊勢宮V遺跡で報告されているH-55号住居跡の東側未調査部分を検出した。形状、その他は住居跡全体を計測した。形状 長方形を呈す。規模 長軸5.00m、短軸4.38m、確認面から床面までの壁高38~49cm。面積 21.71m² 主軸方向 N-94°-E 床面 平坦で堅緻な床面。床面標高は、126.16m。壁周溝は、南東側の一部分を除き巡っている。柱穴 検出されなかった。貯蔵穴(P5) 南東隅で、竈の南側に検出した。長径73cm、短径45cm、深さ48cmの楕円形。竈 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-

102° - E で、全長74cm、最大幅51cm、焚口部幅25cm。南側の袖に石を配する。**重複** 南西側でH-14号住居跡、北西側でD-103号土坑（飢饉時代）と重複しており、新旧関係はD-103→H-14→本遺構の順である。**時期** 埋土や出土遺物から、9世紀前半と考えられる。**遺物** 土師・須恵器の壺・塊・甕などが多く出土した。掲載した遺物は、土師器の壺1点、甕3点、須恵器の壺1点、台付き甕1点など6点。

H-14号住居跡〔第20図、図版6〕

位置 X70・71、Y178グリッド（第4調査区）五代伊勢宮V遺跡で報告されているH-51号住居跡の東側未調査部分を検出した。形状、その他は住居跡全体を計測した。形状 長方形を呈す。**規模** 長軸3.48m、短軸3.20m、確認面から床面までの壁高50~56cm。面積 10.72m² **主軸方向** N-60° - E **床面** 平坦で堅緻な床面。床面標高は、125.94m。壁周溝は、全周する。**柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。**甕** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-61° - E で、全長79cm、最大幅115cm、焚口部幅23cm。**重複** 北東側でH-13号住居跡と重複しており、新旧関係は本遺構→H-13の順である。**時期** 埋土や出土遺物から、8世紀後半と考えられる。**遺物** 土師器の壺・甕、須恵器の塊・甕片など少量出土した。掲載した遺物は、土師器の甕1点、須恵器の壺1点など2点。

H-15号住居跡〔第21図、図版5〕

位置 X72・73、Y176グリッド（第4調査区）**形状** 長方形を呈す。**規模** 長軸5.02m、短軸3.97m、確認面から床面までの壁高30~36cm。面積 19.43m² **主軸方向** N-78° - E **床面** 平坦で堅緻な床面。床面標高は、126.42m。壁周溝は、全周する。**柱穴** 3基検出した。P1 北西側、長径50cm、短径47cm、深さ31cmの円形。P2 南西側、長径31cm、短径31cm、深さ32cmの円形。P3 北東側、長径47cm、短径35cm、深さ30cmの楕円形。**貯蔵穴** (P5) 南東隅で、竈の南側。長径54cm、短径42cm、深さ50cmの楕円形。**甕** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-78° - E で、全長107cm、最大幅86cm、焚口部幅42cm。南側の袖に石を配する。**時期** 埋土や出土遺物から、9世紀前半と考えられる。**遺物** 土師器の壺・甕、墨書き土器の小片や須恵器の塊・甕片など出土量は多かった。掲載した遺物は、土師器の壺2点、甕1点、須恵器の壺1点、塊1点など合計5点。

H-16号住居跡〔第22図、図版6〕

位置 X75・76、Y169・170グリッド（第4調査区）**形状** 不明。**規模** 長軸4.25m、短軸[0.50]m、確認面から床面までの壁高3~11cm。面積 [2.44]m² **主軸方向** N-83° - E **床面** H-22号住居跡とW-2・3号溝に壠され、わずかに残っていた。床面標高は、127.40m。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** (P5) 南東隅、長径58cm、短径56cm、深さ22cmの円形。**甕** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-84° - E で、全長75cm、最大幅90cm、焚口部幅21cm。**重複** 西側でH-22号住居跡、W-2・3号溝と重複しており、新旧関係は本遺構→H-22→W-2・3の順である。**時期** 埋土や出土遺物から、8世紀後半と考えられる。**遺物** 土師器の壺・甕や須恵器の塊・甕片など出土量は少なかった。掲載した遺物は、土師器の壺1点。

H-17号住居跡〔第23図、図版6〕

位置 X76・77、Y166・167グリッド（第4調査区）**形状** 長方形を呈す。**規模** 長軸4.77m、短軸4.47m、確認面から床面までの壁高14~25cm。面積 20.21m² **主軸方向** N-82° - E **床面** 平坦で堅緻な床面。床面標高は、127.52m。壁周溝は、全周する。**柱穴** 4基検出した。P1 北西側、長径44cm、短径35cm、深さ58cmの楕円形。P2 南西側、長径40cm、短径40cm、深さ67cmの円形。P3 南東側、長径45cm、短径43cm、深さ54cmの円形。P4 北東側、長径40cm、短径37cm、深さ70cmの円形。**貯蔵穴** (P5) 南東隅で、竈の南側に検出した。長径50cm、短径

50cm、深さ78cmの隅丸方形。竈 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-84°-Eで、全長61cm、最大幅88cm、焚口部幅40cm。時期 埋土や出土遺物から、6世紀中頃と考えられる。遺物 土師器の壊・甕など破片が少量出土した。掲載した遺物は、土師器の壊1点。

H-18号住居跡〔第24図、図版6〕

位置 X76・77、Y164・165グリッド（第4調査区）形状 長方形を呈す。規模 長軸3.64m、短軸2.64m、確認面から床面までの壁高7~12cm。面積 9.60m² 主軸方向 N-105°-E 床面 平坦で堅緻な床面。床面標高は、127.88m。壁周溝は、全周する。柱穴 検出されなかった。貯蔵穴(P5) 南東隅で、竈の南側。長径42cm、短径38cm、深さ17cmの楕円形。竈 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-109°-Eで、全長65cm、最大幅118cm、焚口部幅41cm。時期 埋土や出土遺物から、8世紀後半と考えられる。遺物 土師器の壊片を少量と甕の破片を多く出土した。掲載した遺物は、土師器の壊1点。

H-19号住居跡〔第24・25図、図版6〕

位置 X81、Y153グリッド（第4調査区）五代伊勢宮VI遺跡で報告されているH-10号住居跡の東側未調査部分を検出した。形状、その他は住居跡全体を計測した。形状 長方形を呈す。規模 長軸5.10m、短軸3.90m、確認面から床面までの壁高25~35cm。面積 18.71m² 主軸方向 N-99°-E 床面 平坦で堅緻な床面。床面標高は、129.18m。壁周溝は、全周する。柱穴 検出されなかった。貯蔵穴(P5) 南東側で、竈の南側。長径50cm、短径48cm、深さ40cmの円形。竈 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-113°-Eで、全長[45]cm、最大幅95cm、焚口部幅22cm。搅乱が多く残りがわるかった。時期 埋土や出土遺物から、8世紀前半と考えられる。遺物 土師器の壊・甕などの破片を少量出土した。掲載した遺物は、土師器の壊2点。

H-20号住居跡〔第25図、図版6〕

位置 X83、Y150・151グリッド（第4調査区）形状 長方形を呈す。規模 長軸3.30m、短軸(2.65)m、確認面から床面までの壁高10~26cm。面積 [8.61]m² 主軸方向 N-94°-E 床面 平坦で堅緻な床面。床面標高は、129.48m。壁周溝は、全周する。柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。竈 重複するH-21号住居跡に壊され検出できなかつたが、残存する床面の焼土範囲から東壁の南寄りに位置すると思われる。時期 埋土や出土遺物から、8世紀後半と考えられる。重複 東側でH-21号住居跡と重複しており、新旧関係は本遺構→H-21の順である。遺物 土師器の壊・甕、須恵器の甕などの破片が少量出土した。掲載できる遺物はなかった。

H-21号住居跡〔第25図、図版6〕

位置 X83、Y150・151グリッド（第4調査区）形状 長方形を呈す。規模 長軸[4.10]m、短軸[3.10]m、確認面から床面までの壁高22~30cm。面積 [6.51]m² 主軸方向 N-80°-E 床面 平坦で堅緻な床面。床面標高は、129.40m。壁周溝は、北西隅の一部を除き巡っている。柱穴 1基検出した。P1 北西側、長径34cm、短径33cm、深さ36cmの円形。貯蔵穴・竈 W-4に壊され検出できなかつた。時期 埋土や出土遺物から、9世紀代と考えられる。重複 西側でH-20号住居跡、東側でW-4号溝と重複しており、新旧関係はH-20→本遺構→W-4の順である。遺物 本遺構に関連する遺物の出土はなかつた。

H-22号住居跡〔第22図、図版6〕

位置 X75、Y169グリッド（第4調査区）形状 不明。規模 長軸3.15m、短軸[0.45]m、確認面から床面までの壁高4~8cm。面積 [1.51]m² 主軸方向 N-87°-E 床面 W-2・3号溝に壊されわずかに残っている。柱

穴・貯蔵穴 検出できなかった。竈 東壁の南寄りに位置する。主軸方向はN-83°-Eで、全長39cm、最大幅47cm、焚口部幅21cm。**時期** 埋土や出土遺物から、9世紀代と考えられる。**重複** H-16号住居跡とW-2・3号溝と重複しており、新旧関係はH-16→本造構→W-2・3の順である。**遺物** 土師器の壊・甕などの破片を少量出土した。掲載できる遺物はなかった。

(2) 穴状遺構

T-1号穴状遺構〔第26図、図版7〕

位置 X42、Y246グリッド(第2調査区) **形状** 長方形を呈す。**規模** 長軸2.70m、短軸1.95m、確認面から床面までの壁高8~15cm。**面積** 4.85m² **主軸方向** N-40°-W **床面** 平坦で堅緻な床面。床面標高は118.78m。焼土、炭化物が多く検出された。**柱穴** 本造構に伴うものは検出されなかった。**時期** 埋土や出土遺物から、7世紀以降と考えられる。**重複** 南側でH-2号住居跡と重複しており、新旧関係はH-2→本造構の順である。**遺物** 土師器の壊・甕などの破片を出土した。掲載できる遺物はなかった。

T-2号穴状遺構〔第26図、図版7〕

位置 X69、Y184グリッド(第3調査区) **形状** 長方形を呈す。**規模** 長軸2.00m、短軸1.65m、確認面から床面までの壁高23~30cm。**面積** 3.07m² **主軸方向** N-4°-W **床面** 平坦で堅緻な床面。床面標高は、125.44m。壁周溝は全周する。**柱穴** 検出されなかった。**時期** 埋土や出土遺物から、7世紀以降と考えられる。**遺物** 土師器の壊・甕などの破片を少量出土した。掲載できる遺物はなかった。

(3) 挖立柱建物跡

B-1号掘立柱建物跡〔第26図、図版7〕

位置 X42・43・44、Y242・243・244グリッド(第2調査区) **形状** 東西方向2間×南北方向4間の長方形。**長軸方向** N-18°-W **推定面積** (29.15)m² **柱間寸法** 東西方向で北側2間のP-37・36・35は1.92m+2.00mで3.92m、南側2間のP-29・30・31は2.00m+2.04mで4.04m。南北方向で東側4間のP-31・32・33・34・35は1.83m+1.90m+1.84m+1.68mで7.25m、西側4間のP-29・28・38・37は1.88m+3.80m+1.72mで7.40m。一部分調査区外のため西側の4間で柱穴を1基確認できなかった。**柱穴** 平面形状は円形、梢円形を呈し、断面形状は円筒形、U字形である。径は長径30~68cm、短径30~52cm、深さ23~69cmを測る。**時期** 埋土や平面形状から、9~10世紀頃と考えられる。**遺物** 土師器の壊・甕などの小片を少量出土し、掲載できる遺物はなかった。

B-2号掘立柱建物跡〔第27図、図版7〕

位置 X64・65、Y195・196グリッド(第3調査区) **形状** 東西方向2間×南北方向2間のやや長方形。**長軸方向** N-3°-E **推定面積** (12.03)m² **柱間寸法** 東西方向で北側2間のP-98・97・96は1.79m+1.61mで3.40m、中央2間のP-99・100・95は1.76m+1.60mで3.36m、南側2間のP-91・92・93は1.54m+1.60mで3.14m。南北方向で東側2間のP-96・95・93は1.90m+1.83mで3.73m、中央2間のP-97・100・92は1.92m+1.73mで3.65m、西側2間のP-98・99・91は1.80m+1.76mで3.56m。**柱穴** 平面形状は円形、梢円

形を呈し、断面形状は円筒形、U字形である。径は長径23~45cm、短径23~38cm、深さ20~45cmを測る。また、P-95・96・97・99では底に白色粘土を施している。時期 埋土や平面形状から、9~10世紀頃と考えられる。
遺物 土師器の环・甕などの小片を少量出土し、掲載できる遺物はなかった。

(4) ピット(柱穴)

調査区域全体で209基のピットを検出した。検出状況は、第1調査区で25基、第2調査区では検出数が36基、掘立柱建物跡を1棟(B-1)組むことができた。第3調査区では132基検出し多くのピットが確認され、掘立柱建物跡を1棟(B-2)組むことができた。第4調査区では16基検出し、南側に集中していた。第3調査区で検出したピット群の北端と思われる。なお、各柱穴の計測値は第3表ピット計測表にまとめて報告する。

(5) 土坑

縄文時代以外の土坑は、調査区全体で54基検出した。(D-27~33・42・61を欠番とした。) 時期を特定できるものは数基で、大多数は時期不明であった。その他に木の根や耕作痕と思われるものもあった。また、規則性などは確認できなかった。縄文時代の土器片や礫などが出土している土坑も検出したが、埋土の質が縄文土坑とは明らかに違い、柔らかく、白色軽石粒やローム粒が多く含まれていて、後世に穴を掘った時、縄文土器などを埋めたか、埋まってしまったのであろう。なお、各土坑の計測値は第4表土坑(古墳時代以降)計測表にまとめた。

第3表 ピット計測表

★は網文土器片、●は土師器片出土を示し、■は須恵器片出土を示す。()は推定値を示す。

ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考	ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
P-1	X36, Y260	36	28	33	梢円形		P-35	X31, Y225	43	35	24	梢円形	
P-2	X36, Y260	28	28	22	円形		P-56	X32, Y225	26	25	17	円形	
P-3	X36, Y260	24	29	34	正方形		P-57	X32, Y225	25	18	5	梢円形	
P-4	X36, Y260	26	24	16	正方形		P-58	X32, Y225	20	16	6	梢円形	
P-5	X36, Y260	22	24	31	正方形		P-59	X32, Y225	28	24	18	不整形	
P-6	X36, Y260	34	29	15	長方形		P-60	X32, Y225	26	24	13	円形	●
P-7	X37, Y259	33	31	36	円形		P-61	X32, Y225	29	24	24	梢円形	
P-8	X37, Y259	30	28	37	円形		P-62	X38, Y209	26	18	63	梢円形	W-2・3内
P-9	X37, Y259	23	26	34	長方形		P-63	X38, Y208	35	35	24	円形	〃
P-10	X37, Y259	31	31	25	円形		P-64	X38, Y208	36	36	35	(円形) ● P-65重複。〃	
P-11	X37, Y258	21	20	20	正方形		P-65	X38, Y208	33	33	32	円形	P-64重複。〃
P-12	X37, Y258	30	23	40	長方形		P-66	X38, Y208	32	32	18	円形	〃
P-13	X38, Y257	27	26	42	不整形		P-67	X39, Y208	35	35	45	(円形) ● P-68重複。〃	
P-14	X38, Y257	25	22	37	梢円形		P-68	X39, Y208	46	35	21	梢円形	P-67重複。〃
P-15	X38, Y256	30	22	11	梢円形		P-69	X39, Y206	33	32	36	円形	〃
P-16	X38, Y255	27	27	15	円形		P-70	X39, Y206	48	43	36	梢円形	●〃
P-17	X39, Y254	31	30	11	円形		P-71	X60, Y206	51	45	18	梢円形	〃
P-18	X39, Y254	38	34	34	梢円形		P-72	X60, Y205	24	24	9	(円形)	〃
P-19	X39, Y254	40	30	35	梢円形		P-73	X60, Y205	28	26	21	円形	〃
P-20	X39, Y253	43	22	17	不整形		P-74	X59, Y205	25	24	20	円形	〃
P-21	X39, Y254	51	36	39	梢円形	●	P-75	X59, Y205	56	47	46	梢円形	
P-22	X39, Y253	47	42	21	梢円形		P-76	X59, Y205	33	32	51	円形	
P-23	X39, Y254	41	36	22	不整形		P-77	X59, Y204	46	39	12	梢円形	
P-24	X39, Y253	37	31	19	不整形		P-78	X62, Y198	32	31	28	円形	
P-25	X39, Y252	76	50	38	梢円形		P-79	X63, Y198	46	37	15	不整形	P-80と重複
P-26	X41, Y250	31	29	21	円形		P-80	X63, Y198	40	32	9	梢円形	P-79と重複
P-27	X41, Y249	46	35	39	梢円形		P-81	X63, Y198	30	23	29	梢円形	
P-28	X43, Y243	30	30	38	円形	B-1	P-82	X63, Y197	44	40	13	円形	
P-29	X43, Y244	37	31	23	梢円形	B-1	P-83	X63, Y197	47	40	13	梢円形	
P-30	X43, Y244	35	35	28	円形	B-1	P-84	X63, Y197	22	21	28	円形	
P-31	X44, Y243	38	33	32	梢円形	B-1	P-85	X63, Y196	30	24	34	梢円形	
P-32	X44, Y243	38	38	40	円形	B-1	P-86	X64, Y196	36	28	42	梢円形	
P-33	X44, Y243	68	52	42	梢円形	B-1	P-87	X63, Y196	30	32	36	円形	■
P-34	X43, Y243	39	38	36	円形	B-1	P-88	X63, Y196	35	34	36	円形	●
P-35	X43, Y242	45	45	50	円形	B-1	P-89	X63, Y196	34	28	30	梢円形	●
P-36	X43, Y242	45	35	58	梢円形	B-1	P-90	X63, Y196	22	20	29	円形	
P-37	X42, Y242	40	35	43	梢円形	B-1	P-91	X64, Y196	45	38	30	梢円形	B-2
P-38	X42, Y242	42	33	69	梢円形	B-1	P-92	X64, Y196	39	37	20	円形	B-2
P-39	X44, Y243	46	41	37	梢円形		P-93	X64, Y196	23	23	20	円形	B-2
P-40	X44, Y242	17	17	15	円形		P-94	X64, Y196	40	28	24	梢円形	
P-41	X45, Y242	26	21	24	梢円形	●	P-95	X65, Y196	31	30	39	円形	B-2
P-42	X44, Y241	19	14	10	梢円形		P-96	X65, Y195	44	40	30	梢円形	B-2
P-43	X44, Y241	27	24	18	梢円形	●	P-97	X64, Y195	44	37	33	梢円形	B-2
P-44	X47, Y234	40	16	31	不整形		P-98	X64, Y195	39	34	22	梢円形	B-2
P-45	X47, Y234	40	14	11	不整形		P-99	X64, Y195	39	34	45	梢円形	●B-2
P-46	X47, Y233	30	29	22	円形		P-100	X64, Y194	42	30	24	梢円形	B-2
P-47	X48, Y233	19	19	20	円形		P-101	X64, Y195	24	20	16	不整形	
P-48	X48, Y233	19	15	5	不整形		P-102	X64, Y195	20	16	12	梢円形	
P-49	X48, Y233	26	24	8	円形		P-103	X64, Y195	24	22	19	円形	
P-50	X48, Y232	19	18	13	不整形		P-104	X64, Y194	50	44	24	不整形	★
P-51	X48, Y232	30	29	16	梢円形		P-105	X65, Y194	36	35	68	円形	
P-52	X48, Y231	37	29	34	不整形		P-106	X65, Y194	50	34	32	(円形) 東側調査区外	
P-53	X48, Y231	26	24	27	梢円形		P-107	X65, Y193	30	28	16	不整形	
P-54	X48, Y231	22	18	27	長方形	●	P-108	X65, Y193	37	29	27	梢円形	

★は網文土器片、●は土師器片出土を示し、■は須唇器片出土を示す。()は推定値を示す。

ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考	ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
P-109	X65, Y193	32	27	49	椭円形		P-160	X68, Y186	25	25	37	円形	W-7と重複
P-110	X65, Y192	31	28	29	円形		P-161	X68, Y186	38	31	50	椭円形	W-7と重複
P-111	X65, Y192	25	25	23	円形	P-112と重複	P-162	X68, Y185	50	44	28	椭円形	●
P-112	X65, Y192	30	30	23	(円形)	P-111と重複	P-163	X68, Y185	72	38	25	椭円形	
P-113	X64, Y192	31	30	34	円形		P-164	X68, Y185	31	24	32	椭円形	D-64と重複
P-114	X65, Y192	37	32	18	椭円形		P-165	X68, Y185	28	26	16	円形	
P-115	X65, Y192	45	33	45	椭円形		P-166	X68, Y185	27	22	48	椭円形	●
P-116	X66, Y192	40	30	40	椭円形		P-167	X69, Y185	31	26	23	椭円形	●
P-117	X66, Y192	33	24	15	椭円形		P-168	X69, Y185	26	19	29	椭円形	
P-118	X66, Y192	35	29	22	椭円形		P-169	X69, Y185	24	22	27	円形	
P-119	X66, Y192	31	24	28	椭円形		P-170	X69, Y185	22	22	20	円形	
P-120	X66, Y192	33	26	17	椭円形		P-171	X68, Y184	31	25	22	椭円形	●●
P-121	X66, Y192	26	22	15	椭円形		P-172	X69, Y184	63	34	19	不整形	★●●
P-122	X66, Y191	23	21	19	正方形		P-173	X68, Y184	57	52	37	椭円形	
P-123	X65, Y191	24	21	24	椭円形		P-174	X69, Y184	33	33	33	円形	●
P-124	X66, Y191	24	21	15	椭円形		P-175	X69, Y183	38	25	29	椭円形	
P-125	X66, Y190	59	39	19	不整形		P-176	X69, Y183	31	28	21	椭円形	
P-126	X66, Y190	31	30	20	円形		P-177	X69, Y185	27	23	56	不整形	
P-127	X66, Y190	24	24	19	円形		P-178	X70, Y183	31	29	17	円形	
P-128	X66, Y190	27	27	28	円形		P-179	X70, Y182	28	24	27	椭円形	
P-129	X67, Y190	31	26	28	椭円形		P-180	X70, Y182	31	22	24	椭円形	P-181と重複
P-130	X67, Y190	29	29	60	円形		P-181	X70, Y182	27	24	15	椭円形	P-180と重複
P-131	X66, Y192	60	45	21	(椭円形)	東側調査区外	P-182	X70, Y181	42	28	39	椭円形	
P-132	X66, Y191	35	29	11	椭円形		P-183	X70, Y181	28	28	34	円形	
P-133	X66, Y191	54	39	19	不整形	★P-134と重複	P-184	X70, Y181	25	24	28	円形	
P-134	X66, Y191	46	30	10	椭円形	P-133と重複	P-185	X71, Y181	45	41	37	円形	
P-135	X66, Y191	74	34	69	不整形		P-186	X71, Y181	40	32	37	椭円形	★
P-136	X67, Y190	46	41	32	椭円形		P-187	X71, Y180	44	33	31	椭円形	
P-137	X66, Y190	26	20	31	椭円形	W-7と重複	P-188	X71, Y180	59	50	32	椭円形	●●
P-138	X66, Y189	30	22	61	椭円形	W-7と重複	P-189	X71, Y180	64	53	33	不整形	●
P-139	X67, Y190	27	20	22	椭円形		P-190	X71, Y180	23	19	38	椭円形	D-70と重複
P-140	X67, Y189	29	25	32	椭円形	★W-6と重複	P-191	X70, Y180	60	51	31	椭円形	H-12と重複
P-141	X67, Y189	35	34	15	円形		P-192	X71, Y180	58	57	47	円形	
P-142	X67, Y189	27	26	19	円形		P-193	X71, Y179	58	49	39	椭円形	■
P-143	X67, Y188	26	21	33	椭円形		P-194	X72, Y178	27	25	15	円形	
P-144	X67, Y188	26	20	28	椭円形		P-195	X71, Y178	56	48	28	椭円形	
P-145	X67, Y188	29	28	58	円形		P-196	X72, Y177	36	25	17	椭円形	
P-146	X67, Y188	41	35	55	椭円形		P-197	X72, Y176	26	23	12	円形	
P-147	X67, Y188	39	21	47	不整形	W-7と重複	P-198	X72, Y176	40	33	29	椭円形	
P-148	X68, Y188	30	20	42	椭円形	W-7と重複	P-199	X72, Y175	74	46	22	椭円形	H-15と重複
P-149	X67, Y188	34	28	25	椭円形	P-150と重複	P-200	X72, Y175	47	43	27	円形	
P-150	X67, Y188	30	30	60	(円形)	P-149と重複	P-201	X73, Y175	40	35	45	椭円形	J-3と重複
P-151	X67, Y188	27	24	37	椭円形	W-7と重複	P-202	X72, Y175	47	46	50	円形	
P-152	X66, Y188	33	28	58	椭円形	W-7と重複	P-203	X73, Y175	37	34	96	円形	J-3の柱穴
P-153	X68, Y188	35	24	72	椭円形	W-7と重複	P-204	X73, Y175	40	35	29	椭円形	
P-154	X67, Y187	24	17	52	椭円形	W-8と重複	P-205	X73, Y174	88	70	55	椭円形	●
P-155	X67, Y187	32	17	45	椭円形		P-206	X76, Y168	31	29	29	円形	
P-156	X68, Y187	34	30	47	椭円形		P-207	X76, Y168	36	27	21	椭円形	★
P-157	X68, Y186	33	28	49	椭円形		P-208	X76, Y168	24	20	29	椭円形	
P-158	X68, Y186	32	26	37	椭円形	W-7と重複	P-209	X79, Y162	37	31	48	椭円形	★
P-159	X69, Y186	36	27	37	椭円形	W-7と重複							

第4表 土坑(古墳時代以降)計測表

()は推定値。〔 〕現存値、★は鍍金土器片、●は土器片出土を示し、■は須恵器片出土を示す

土坑番号	遺構位置 (グリッド)	形 状		規 模(cm)			通 物			備 考 (重複、その他)
		平 面	断 面	長 度	幅 宽	深 さ	揭板脚	土器片	石 器	
D-3	X36, Y259	円形	台・直下	71	70	25				
D-5	X37, Y258	梢円形	台・皿	78	69	23				
D-6	X38, Y258	梢円形	台形	81	71	33				
D-7	X38, Y257	円形	皿状	77	76	23				
D-8	X38, Y254	円形	皿状	135	133	48				
D-9	X39, Y253	円形	台形	119	118	35				
D-10	X40, Y253	長方形	台形	244	120	10		●3		
D-11	X41, Y249	円形	台・皿	85	83	49				
D-12	X41, Y247	梢円形	台形	61	54	29				
D-13	X41, Y247	梢円形	皿状	83	59	35				
D-14	X41, Y247	円形	台形	86	80	38				
D-15	X43, Y245	円形	直下り	100	92	28				H-3
D-16	X42, Y244	円形	台形	78	78	27		■1		
D-18	X44, Y242	梢円形	台形	55	48	32				P-33
D-21	X44, Y242	円形	台形	127	115	45				
D-22	X44, Y241	梢円形	皿状	118	103	43				
D-23	X44, Y241	円形	台形	115	113	43				
D-24	X44, Y241	円形	皿状	89	78	39				
D-25	X44, Y241	円形	台形	96	92	33				
D-26	X44, Y240	梢円形	台形	154	136	54				
D-34	X47, Y236	円形	皿状	79	79	14				
D-35	X46, Y235	円形	台・皿	84	83	23				
D-36	X48, Y232	円形	台形	85	81	20				
D-37	X48, Y232	梢円形	皿状	71	61	18				
D-38	X48, Y231	円形	皿状	48	47	13				
D-39	X49, Y231	梢円形	皿状	71	57	16				
D-40	X49, Y231	円形	皿状	53	49	16				
D-41	X48, Y231	梢円形	皿状	61	53	25				
D-43	X50, Y230	(円形)	皿状	106	[90]	59				東側調査区外
D-44	X49, Y229	梢円形	皿状	63	53	12				
D-45	X49, Y229	円形	台形	65	64	17				
D-46	X50, Y227	梢円形	直下り	84	54	65	●2	●4		
D-47	X51, Y224	梢円形	台・皿	155	86	27				
D-48	X51, Y224	(円形)	皿状	83	[71]	45				
D-49	X52, Y224	梢円形	皿状	72	59	21				
D-52	X62, Y196	梢円形	台形	142	110	55		★2		
D-56	X63, Y196	梢円形	台形	120	110	46		★2		
D-57	X65, Y193	梢円形	皿状	152	113	40		★3		
D-58	X66, Y193	梢円形	皿状	[88]	82	28				W-5, 根の搅乱あり
D-59	X65, Y192	梢円形	皿状	96	79	47				D-60
D-60	X65, Y192	(円形)	台・直下	50	(50)	20				D-59, 根の搅乱あり
D-63	X68, Y186	(円形)	台形	110	(110)	28		★9		W-8, 根の搅乱あり
D-64	X64, Y185	不整形	U字状	206	192	99				D-73, W-7
D-65	X70, Y184	(梢円形)	台形	86	[35]	58				東側調査区外
D-66	X68, Y185	(円形)	台形	112	(112)	37		★3 ●21		D-72, W-7
D-67	X69, Y184	梢円形	台形	89	76	34				
D-68	X69, Y184	梢円形	台・皿	84	73	40				
D-69	X70, Y181	梢円形	台形	90	80	23		★2 ●2		
D-70	X71, Y180	円形	台・直下	90	81	24		●14 ■1		P-190
D-72	X68, Y184	長方形	V字形	152	120	57	●1	●5		D-66, W-7
D-74	X73, Y175	円形	直下り	66	64	34				
D-75	X73, Y175	不整形	台・直下	70	50	62		●8 ■2		
D-76	X73, Y175	梢円形	直下り	79	71	33		●17 ■1		
D-81	X73, Y173	梢円形	台・皿	200	134	97				W- 9

(6) 溝 跡

W-1号溝〔第5図、図版7〕

X38・39、Y254・255グリッド(第1調査区)に位置する。五代木福I遺跡C区で報告されているW-4号溝の西側部分の続きである。規模は検出長6.15m、上幅305~482cm、下幅128~155cm、深さ24~35cmで緩やかな皿状の掘り込みで東から西へ走行する。溝底の標高は117.70~117.76mで、勾配は1.0%であった。道路遺構に見られるような硬化面はなかった。時期不明である。遺物は土師器の壺・甕の小片を数点出土した。

W-2・3号溝〔第5・28図、図版7〕

第2調査区はX53~56、Y214~224グリッド、第3調査区ではX57~65、Y196~212グリッド、第4調査区ではX75、Y167~173グリッドに位置する。東側に接する五代木福I遺跡、五代竹花遺跡、西側に接する五代伊勢宮VI遺跡で検出され、北側の五代伊勢宮IV遺跡では検出されていない。計測集計すると、規模は上幅1.82~4.10m、下幅10~298cm、深さ30~90cm、平均勾配は2.7%を測る。台形から皿状の掘り込みで北から南へ蛇行しながら走行する。他の遺跡では掘り直されている形跡がなかったが、本遺跡の遺構断面を見るとW-2号溝が掘られて自然堆積により埋まった後W-3号溝が掘られ、さらに第2調査区から第3調査区ではW-3号溝が自然堆積で埋まった後、溝が掘られた様子が見られる。W-2号溝の底部や上層部に砂や赤褐色の鉄分が凝集し硬く締まった土層があり、確かに水が流れてい水路のようであったと考えられるが、第4調査区で溝の北東側に崩れてはいるが表面が硬く締まった階段状の下り口を検出し、機能的には切り通しの道路としての性格が考えられる。W-3号溝の底部は硬く締まっていたが、W-2号溝で見られたような硬く締まった土層は検出せずいつきに埋まった様子が見られる。第4調査区でH-16・22号住居跡を壊して掘られ、埋め土に浅間B軽石が混入していた。後述のW-4号溝が道路として作られる以前の道路跡の可能性がある。時期は中世以降と思われる。遺物は縄文土器、土師・須恵器などの破片が出土した。

W-4号溝〔第6・8図、図版7〕

第2調査区ではX55~57、Y214~218グリッド、第3調査区ではX57~60、Y206~212グリッド、第4調査区ではX80~86、Y146~160グリッドに位置する。本遺跡では全幅検出されていないが、東側に接する五代木福I遺跡、五代伊勢宮III遺跡、五代竹花遺跡、五代竹花II遺跡でも検出され計測集計すると、規模は上幅4.85~7.00m、下幅3.80~4.50m、深さ35~103cm、平均勾配2.0%を測る。台形の掘り込みで、北から南へ蛇行しながら走行し、底面には砂利が敷設されていた。五代伊勢宮III遺跡ではヒューム管が埋設されており、昭和中頃まで使用されていた道路跡である。

W-5号溝〔第7・28図、図版2〕

X63~66、Y193~198グリッド(第3調査区)に位置する。規模は検出長25.48mで上幅22~73cm、下幅10~51cm、深さ4~11cm、溝底の標高は124.02~124.70mで、勾配は3.0%であった。浅い皿状の掘り込みで北から南へ走行する。形状、覆土やW-2・3の西側に沿う様相から第4調査区で検出したW-10号溝と同じものと思われる。時期は埋め土やW-10号溝から近世以前である。遺物は土師器の甕の小片を出土した。

W-6号溝〔第7・28図、図版2〕

X66~68、Y188~189グリッド(第3調査区)に位置する。規模は検出長8.66mで上幅33~70cm、下幅10~32cm、深さ5~12cm、溝底の標高は125.06~125.23mで、勾配は2.0%であった。浅い皿状の掘り込みで北から

南へW-7の東側を沿うように走行し、途中で消滅する。時期不明である。遺物は土師器の壺、須恵器の蓋の小片など数点出土した。

W-7・8号溝〔第29図、図版7〕

W-7号溝は、X65~69、Y184~190グリッド（第3調査区）に位置する。五代伊勢宮II遺跡で報告されているW-2号溝と五代伊勢宮V遺跡で報告されているW-2号溝の東側部分の続きである。規模は検出長25.81m、上幅83~132cm、下幅25~64cm、深さ28~71cmで浅い皿状や深いU字形の掘り込みで、北西側の五代伊勢宮V遺跡W-2号溝から主軸方向N-20°-Wで南東の壁に入りそこから5mほど南からN-127-Wの方向で南西へ走行し、所々切れる部分を持ち五代伊勢宮II遺跡のW-2号溝に接合する。

W-8号溝は、X67・68、Y186・187グリッド（第3調査区）に位置する。規模は検出長10.74m、上幅120~158cm、下幅28~82cm、深さ34~82cmで皿状やU字形の掘り込みで、北西側の五代伊勢宮V遺跡W-3号溝から主軸方向N-20°-Wで南東へ5.63mほど走行する。そこからN-127-Wの方向で南西へ走行し調査区外へ入るが、五代伊勢宮II遺跡W-1号溝に接合するとと思われる。W-7・8号溝の全容を見ると、コの字状をし、内堀と外堀といった配置で内外の溝間が2.00~2.50mになっている。しかし、北西から南東に走行する4条の溝はほぼ平行に走行するが、北東から南西に走行する2条は平行に走行しているものの前述の4条とは内角107°を測り、直角に交わっていない。内堀間の距離はおよそ36.00m、外堀間の距離はおよそ42.30mを測り、両溝とも形状が長楕円や円形で、深く掘ったり浅く掘ったりした土坑を一定の方向につなげた様相を呈し、所々切れた部分を持っている。また、水の流れた形跡や道路として使用された形跡もない。時期は9世紀中頃の土師器の壺が出土したD-72号土坑がW-7を掘り込んでいるため、9世紀中頃以前と考えられる。遺物は繩文土器片から、土師・須恵器の壺、塊、甕の破片を出土した。

W-9号溝〔第8図、図版2〕

X73・74、Y173・174グリッド（第4調査区）に位置する。五代伊勢宮V遺跡で報告されているW-1号溝の東側未調査部分を検出した。東側に隣接する五代竹花II遺跡では検出されていない。規模は検出長5.85mで上幅245~270cm、下幅24~38cm、深さ38~46cmを測りU字形の掘り込みで東から西へ走行する。溝底の標高は126.61~126.69mで、勾配は1.4%であった。時期は埋土や隣接する遺跡から近世以降と考えられる。遺物は繩文土器の破片1点を出土した。

W-10号溝〔第8図、図版2〕

X74、Y171~173グリッドに位置する。（第4調査区）五代伊勢宮VI遺跡で報告されているW-8号溝の南側未調査部分を検出した。規模は検出長11.34mで上幅55~84cm、下幅25~53cm、深さ6~12cm、溝底の標高は126.91~127.28mで、勾配は3.3%を測り、浅い皿状の掘り込みで北から南へ走行し、第3調査区で検出したW-5号溝へ至っていると思われる。南端でW-9号溝と重複し、新旧関係は本遺構→W-9の順である。時期は埋土などから近世以前と考えられる。遺物は出土しなかった。

3 まとめ

本遺跡は、五代南部工業団地遺跡群のほぼ中央を走行する在来道路の部分であり、隣接する各遺跡の未調査部分を今回行い、縄文時代中期・古墳時代から奈良・平安時代にわたる遺構が検出され、遺物も出土している。ここでは、隣接する各遺跡の報告を踏まえながら、本遺跡の縄文時代から奈良・平安時代についてまとめていくことにする。

(1) 縄文時代

本遺跡では、縄文時代の竪穴住居跡を3軒、縄文時代の土坑40基、集石遺構1ヶ所を検出した。

3軒の住居跡の中でJ-1とJ-3号住居跡は縄文時代中期後葉の住居跡で、標高約125.0~127.0mの範囲の中で検出された。J-1号住居跡では石環いの坪の中に加曾利E式の埋設土器を配している。住居跡の西側に隣接する五代伊勢宮II遺跡では中期後葉の住居跡が4軒検出されている。J-3号住居跡では加曾利E3式の埋設土器の口縁を補強するように手の平サイズほどの石が並べられていた。東側に隣接する五代竹花遺跡で検出されたJ-1、J-2号住居跡が縄文時代中期後葉の住居跡であり、本遺跡のJ-3号住居跡の南側約11mほどに五代竹花遺跡のJ-1号住居跡、それから南東に約12mほどとのところにJ-2号住居跡がある。ほぼ等間隔で環状の配置に見えるが環状集落形成には至っていない。本遺跡J-2号住居跡は標高約129.5mほどにあり、円形で地床炉を検出し、縄文時代中期中葉の土器片が少量出土している。標高約127.8~131.5mの範囲に及ぶ本遺跡を含めた北側に位置する五代伊勢宮IV遺跡、西側に隣接する五代伊勢宮VI遺跡および東側に隣接する五代深堀III遺跡は、縄文時代中期に形成された環状集落である。その集落の内側には土坑群が環状を呈している。本遺跡でも標高約127.8m以上では、ほとんどが縄文時代中期中葉の土坑でD-84号土坑では、完形に近い阿玉台式土器が出土し、D-95号土坑では、赤く焼けた石が187個も出土し、五代伊勢宮VI遺跡では集石土坑が10基検出されている。また、D-99号土坑では、焼石が36個のほか割れた石皿や量多に出土した縄文時代中期の土器片の中に前期後葉の諸磯式土器片も出土しており、不要物を廃棄したようにも見える。このように北側の中期中葉の環状集落及び土坑群から南側の中期後葉の住居跡の傾向の一端が本遺跡でも見られた。

(2) 古墳時代以降

本遺跡では、古墳時代の竪穴住居跡を9軒検出した。標高約119.00~128.00mの範囲で、五代南部工業団地遺跡群の中央台地では非常に多い傾向の中に属している古墳時代後期の住居跡である。住居の規模は、奈良・平安時代のものと比較し大型で、特に大きいH-8号住居跡は7.50×7.93mを測る。9軒とも形状は正方形か、それに近い形で遺構確認面から床面までの掘り込みも深く、搅乱などによる遺存状態は良かった。標高約119.00~128.00mの範囲で検出したH-2~4・8・10・17号住居跡ではコモ編み石を出土し、その内H-2~4号住居跡では土師器の壺、長胴壺、高壺、懶など出土量が多かった。また、この3軒とも張り床の厚さが24cmを測り住居建築の際には、多量の土を運搬したと思われ、大きな労働力を必要とされたと考えられる。さらにH-3号住居跡では土器を碎いたものが床いち面にまかれており、湿気を嫌った対策と思われる。

奈良・平安時代の竪穴住居跡は、12軒検出した。標高約120.50~130.00mの範囲で8世紀代の住居跡を7軒検出し、規模は古墳時代のものと比較し小型化し、形状は長方形であった。遺構確認面から床面までの掘り込みは浅く、搅乱などによる遺存状態が悪いものが多くあった。9世紀代の住居跡は、標高約118.00~130.00mの範囲で5軒検出し8世紀代と同様に規模は小型化し、形状は長方形であった。また、9世紀後半と思われる住居跡は、

さらに小型化しH-1号住居跡の規模は2.70×3.30mであった。その他の遺構では、調査区域全体で209基のピットを検出した。検出状況は、第1調査区で25基を検出し、東側の五代木福I遺跡C区でも同様の標高約117.00～118.00m付近で住居跡やピットが多く確認された。第2調査区では検出数が36基で、掘立柱建物跡を1棟（B-1）組むことができた。西側に隣接する五代江戸屋敷遺跡や東側の五代木福I遺跡B区でも同様の標高約119.00～120.50m付近で多くのピットが確認され、掘立柱建物跡も報告されている。第3調査区では132基検出し多くのピットが確認され、掘立柱建物跡を1棟（B-2）組むことができた。西側に隣接する五代伊勢宮I遺跡、五代伊勢宮II遺跡、五代伊勢宮V遺跡でも本遺構と同じ標高約122.50～126.50m付近で住居跡、掘立柱建物跡やピット群が多く検出されている。第4調査区では、16基検出した。主に南側の標高約126.50～127.00m付近に検出し、第3調査区で検出したピット群の北端と思われる。また、西側に隣接する五代伊勢宮VI遺跡や東側の五代竹花II遺跡、五代深淵III遺跡では、狭い範囲にピット群が点在する傾向にあり、第4調査区ではピットをあまり検出していない。

以上のように、五代南部工業団地遺跡群の中央台地での遺構検出状況の傾向が本遺跡にも現れている。

本遺跡調査により東側と西側で隣接する各遺跡で検出されている溝跡を接続し走行方向の変化など明瞭になった。W-2・3号溝は本遺跡では第2調査区の北側から検出され第3・4調査区でもその姿を現している。隣接する各遺跡でも報告され北から南へ蛇行し、奈良・平安時代の住居跡を切り、土層断面からW-2はW-3より古く、W-2が埋まった後W-3を掘っている。また、W-2の溝底は鉄分が凝縮し硬く締まっており堆積状況からは人間が歩いた痕跡をはっきりと確認できなかったが、第4調査区で土手の上から溝へ下りていくような階段状の硬い部分を確認した。W-4号溝も本遺跡では第2調査区の北側から検出され第3・4調査区でもその姿を現し、第3調査区まではW-2・3号溝と平行に走行し第4調査区に入ると走行を異にする。昭和の中頃まで使用していた道路である。このように、中世以降から道路としての形態が作られ、赤城山麓の街道として現在に至っているのであろう。W-7・8号溝は今回の調査により、五代伊勢宮II遺跡とV遺跡で報告されている溝跡が連結することが確認され、全容は変形したコの字状の内堀と外堀といった配置になっている。この溝の使用目的として、本遺跡の近隣に江戸屋敷という地名があり館を取り囲む堀割の可能性はあるが、本遺構を検出した地名は伊勢宮であり伊勢神宮になぞらえた地名を付したとすれば天照大御神、あるいは豊受大御神をお祭りした神社跡の可能性がある。豊受大御神は神々にたてまつる食物をつかさどり、のことから衣食住、ひろく産業の守護神としてあがめられている。五代伊勢宮II遺跡で調査した際、溝から9世紀前半の土師器の壊が出土し底部に「豊」もしくは「農」と書かれた墨書き土器が出土し、五代伊勢宮V遺跡でも須恵器の壺と皿に墨書きが施されているものが出土している。「豊」もしくは「農」と書かれた墨書き土器は、供物を入れ農作物の豊作を祈願し祭壇に供えたものと考えられる。しかし、溝の内側には主柱穴と成りうるピットが検出されておらず、おそらく礎石をもつ建物であった可能性がある。壺は8世紀中頃から9世紀初頭まで存続したと思われるが、使用目的を特定するまでには至らなかった。

第5表 遺物観察表(縄文時代)

法量は①口徑②底径③製部最大④留高を表し、単位はcmである。また、()は推定値、〔 〕は現存値を表す。

遺物番号	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存	器形の特徴、文様構成、文様施文	備考
J-1-1	9%1	深鉢	①(27.2) ④(12.7)	①細軟②良好 ③純い黄褐色④1/2	口縁部は縦帶により区画され、縦帶溝横文を施し、区画内に押引文。頸部に圓文L.R.。一本の次線が土器部を3周する。肩部は縦方向に沈線9条で10区間に区画し、区内圓文L.R.	底部を欠く 炉体土器 加曾利E系
J-3-1	9%1	深鉢	①14.0 ④(28.5)	①圓・中粒②良好 ③明赤褐色④口・肩	平行隆線による済合文。隆線間無文。隆線の外側に圓文L.R.施文。隆線により長幅円に区画され、区画内圓文L.R.や下部に割目のあるものがある。外部は無文。	
D-84-1	No1	深鉢	①22.4 ②12.4 ④26.0	①細軟、雲母・石英 ②良好 ③褐色④5/6	形状は直線的に開く。縦帶で口縁部、頸部、胸部に3分割され、口縁部の区画内に結節状線、「H」字状の突起1対と直交してリング状の突起1対を付す。頸部と胸部の境にも突起を対にして付している。これらの突起から削部に隆線の進行を行す。隆線には割目を付したものもある。底部網代紋あり。	阿玉台系
D-84-2	No2	深鉢	④(25.1)	①細・粗粒、雲母・石英 ②良好 ③赤褐色④頸部～肩部	頸部隆筋による区画。区画内及び肩部に縦に指で強くこすった微擦起線文を施す。	阿玉台系
D-87-1	No1	深鉢	④(15.1)	①細・粗粒、雲母・石英 ②良好 ③赤褐色④口縁～盤部	口縁部は突起し、済合状を呈す。頸部に押引文。縦帶による区画があり、区画内押引文を施す。	阿玉台系
D-96-1	No1	深鉢	④(14.5)	①細・中粒、雲母・石英 ②良好 ③褐色④盤部～肩部	頸部と肩部を縦帶により分割。縦帶に突起を有し、そこから肩部に隆線が蛇行する。頸部と肩部に横方向の爪形状文がそれぞれ1条見られる。	阿玉台系
D-99-1	No6	深鉢	④(8.1)	①圓・中粒②良好 ③明赤褐色④肩部	幅の広めの平裁竹管による平行沈線。	諸磯系
D-102-1	一括	深鉢	④(8.8)	①圓・粗粒②良好 ③赤褐色④肩部	肩部を横方向に付し、突起を付す。平裁竹管による隆起縞文。	

第6表 石器観察表

出土位置	台帳番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
J-1-2	No20	多孔石	[18.5]	[19.1]	7.6	3,504	安山岩	両面多孔あり。一部欠損。
J-1-3	9%2	石鑿	[2.0]	[1.5]	0.4	0.70	黒色頁岩	凹基無茎鑿、先端・基部欠損。
J-1-4	No10	敲石・磨石	46.7	17.4	9.8	12,320	安山岩	先端削き痕あり。 肩部有り跡。
J-1-5	No6	磨石	15.7	7.3	5.6	1,100	花崗岩	先端部にわずか削き痕あり。 肩部有り跡。
J-2-1	No6	磨石	12.3	8.8	4.6	823	安山岩	肩部側面磨り跡。
J-2-2	No5	凹石	9.1	7.2	3.2	317	安山岩	表面凹あり。
J-2-3	No4	石鑿	[3.1]	[1.9]	0.4	1.49	黒色頁岩	凹基無茎鑿。 先端・基部欠損。
D-86-1	No1	敲石	12.5	8.7	4.0	748	安山岩	先端部敲き痕あり。
D-95-1	一括	打製石斧	9.5	4.5	1.5	79	頁岩	擦形
D-99-2	一括	石皿・多孔石	[5.1]	[17.1]	4.3	1,540	安山岩	一部欠損。
D-102-2	No4	凹石	13.6	9.0	5.0	1,000	安山岩	表面凹あり。
D-102-3	No3	打製石斧	12.4	5.1	2.0	179	頁岩	

第7表 遺物観察表（古墳時代以降）

法量は①口徑②底周③製造最大④高さを表し、単位はcmである。また、()は推定値、〔 〕は現存値を表す。

遺物番号	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存	器形の特徴、成・整形方法	備考
H-1-1	No2	須恵器 壺	①(14.4) ④(3.8)	①細部②良好 ③灰白色④1/3	瓶瓶型。底部欠損。体部外傾し、口縁外反。	
H-2-1	No5	土師器 壺	①(14.0) ④(3.8)	①細②良好 ③明赤褐色④5/6	浅い丸底。縦を持ち口縁短く内傾。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	
H-2-2	No14	土師器 壺	①(12.4) ④(4.7)	①細部②良好 ③橙色④3/4	丸底。縦から内側口縁長く外反。内面擦で。外面部口縁横擦で。底部削り。	
H-2-3	No27, 28,	土師器 小壺	①(10.6)②(13.6) ④(7.5)	①細部②良好 ③明赤褐色④1/3	底部欠損。肩部丸みを持つ。肩に棱あり、口縁外反。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	
H-2-4	No51	土師器 壺	①(17.2)②(5.6) ④(15.5)	①細部②良好 ③純④黄褐色④3/4	やや丸みを持つ平底。丸みを持ち外傾。内面削り、撫で。口縁横擦で。外面部底削り。	
H-2-5	No35	土師器 小壺	①(9.8)②(5.6) ④(12.2)②(13.7)	①細部②良好 ③浅黃褐色④完形	やや丸みを持つ平底。肩に棱あり縦長球形。内面底削り、撫で。口縁横擦で。肩部削り。	
H-2-6	No13	土師器 高环	①(18.6) ④(6.3)	①細②良好 ③明赤褐色④1/3	脚部欠損。环部凹状。内面擦で。外面部底横擦で、脚と合面部削り。	
H-2-7	No16	土師器 高环	①(16.4) ④(10.5)	①細部②良好 ③橙色④1/2	环部欠損。脚部ラッパは。内面底削り、脚部削で。外面部削り。	
H-2-8	No31	土師器 壺	①(24.7) ④(12.0)	①細部②良好 ③明赤褐色④1/3	上部欠損。平底。底弾型。内面擦で。外面部底削り。	長財塚
H-2-9	No34	土師器 壺	①(21.6)②(2.9) ④(18.7)③(35.1)	①細部②良好 ③明赤褐色④完形	平底。底弾型。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	長財塚
H-2-10	No21	土師器 壺	①(20.0) ④(18.4)③(32.7)	①細部②良好 ③明赤褐色④9/10	底部欠損。底弾型。縦から口縁外反。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	長財塚
H-3-1	No 1, 一括	土師器 壺	①(12.0)②(11.6) ④(5.6)	①細部②良好 ③純④黄褐色④1/4	丸底。縦から口縁外反。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	
H-3-2	一括	土師器 壺	①(12.6)②(10.8) ④(4.2)	①細部②良好 ③橙色④3/4	丸底。縦を持ち口縁長く外傾。内面擦で。口縁横無で。外面部底削り。	
H-3-3	No15,	土師器 壺	①(19.4) ④(17.7)②(12.5)	①細部②良好 ③明赤褐色④1/3	底部欠損。肩部丸みを持つ。肩に棱あり、口縁外反。内面擦で。口縁横擦で。肩部削り。	
H-4-1	カNo.1	土師器 壺	①(20.6)②(15.0) ④(18.6)③(39.2)	①細②良好 ③橙色④1/2	平底。砲弾型。口縁外反。内面擦で。口縁横擦で。外面部削り。	長財塚
H-4-2	カNo.3	土師器 壺	①(20.4) ④(18.3)②(17.0)	①細②良好 ③純④黄褐色④2/3	底部欠損。底弾型。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	長財塚
H-4-3	カNo.4	土師器 壺	①(19.4) ④(18.7)②(22.5)	①細②良好 ③橙色④1/2	底部欠損。底弾型。頭部から口縁外反。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	長財塚
H-4-4	カNo.2	土師器 壺	①(19.6) ④(17.2)②(14.0)	①細②良好 ③橙色④1/2	平底。砲弾型。内面削り、撫で。口縁横擦で。外面部削り。	長財塚
H-4-5	No 1,	土師器 高环	①(18.5)②(15.4) ④(19.1)	①細②良好 ③橙色④3/4	瓶口縁・脚部欠損。環部底欠損。脚部ラッパ状。内面底削り、撫で。外面部底削で脚部削り。	
H-5-1	No 2	土師器 壺	①(12.0) ④(4.7)	①細②良好 ③橙色④3/4	丸底。縦を持ち口縁長く外反。内面擦で。口縁横無で。外面部底削り、黒色処理。	
H-5-2	No 4	土師器 壺	①(23.4) ④(26.4)②(11.0)	①細部②良好③純 ③黃褐色④1/3	脚部丸みを持つ。肩にわざか健あり、口縁外反。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	
H-7-1	No 2	土師器 壺	①(10.0) ④(3.4)	①細部②良好 ③明赤褐色④完形	丸底。小型半球形。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	
H-7-2	No 3, 5	土師器 壺	①(10.0)②(9.2) ④(2.9)	①細部②良好 ③明赤褐色④1/2	丸底。小型半球形。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	
H-7-3	No 1	土師器 壺	①(23.4) ④(8.7)	①細部②良好 ③橙色④1/2	脚部丸みを持つ。頭部「く」の字。口縁外反。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	
H-8-1	一括	土師器 壺	①(11.4) ④(5.9)	①細部②良好 ③橙色④1/6	丸底。縦を持ち口縁外傾。内面擦で。口縁横擦で。外面部削り。	
H-10-1	No17	土師器 壺	①(10.4) ④(3.6)	①細部②良好 ③橙色④1/4	丸底。縦を持ち口縁長く外反。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り。	
H-10-2	No 1, 2, 16	土師器 壺	①(31.5)②(16.5)	①細部②良好 ③明赤褐色④1/2	上半分が底部欠損。脚部半球形。内面底削り、撫で。外面部底削り。	
H-10-3	No 3, 4	土師器 壺	①(23.6) ④(22.2)②(10.5)	①細部②良好 ③橙色④1/2	砲弾型。口縁外反。内面底削り、撫で。口縁横擦で。外面部削り。	長財塚
H-13-1	一括	須恵器 壺	①(12.2)②(7.0) ④(4.8)	①細部②良好 ③橙色④1/5	瓶瓶形。やや丸みを持ち外傾し、口縁外反。底部削り、糸切り筋有り。	
H-13-2	一括	土師器 壺	①(12.2)②(8.0) ④(5.1)	①細部②良好 ③純④黄褐色④1/3	平底。丸みを持ち外傾。内面擦で。口縁横擦で。外面部底削り、撫で。	
H-13-3	No 6	須恵器 壺	①(10.5) ④(12.8)	①細②良好 ③褐灰色④1/2	上半分欠損。瓶瓶形。脚部丸みを持ち外傾。底部削り、糸切りし、付高台座擦。	小型台付裏
H-13-4	カNo.4, 一括	土師器 壺	①(12.2) ④(22.2)②(10.1)	①細部②良好③赤褐色 ④(1)脚から削り	丸みを持ち内溝し、頭部「コ」の字。内面底削り、撫で。口縁横擦で。外面部底削り。	
H-13-5	カNo.2, 一括	土師器 壺	①(21.8) ④(23.0)②(16.3)	①細部②良好③明赤褐色 ④(1)脚から削り	脚部丸みを持ち、頭部「コ」の字に近い。内面底削り、撫で。口縁横擦で。外面部底削り。	

法量は①口徑②底径③胴部最大④高さを表し、単位はcmである。また、()は推定値、〔 〕は現存値を表す。

遺物番号	台帳番号	器種	法量	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存	器形の特徴、成・整形方法	備考
H-13-6	かN3.5	土器器	①(21.0) ②(23.0) ③(4.0) ④(14.5)	①細粒②良好③明赤褐色 ④口縁から削り跡/8	胴部丸みを持ち、頭部「コ」の字に近い。内面擦で。口縁横擦で。外面削部削り。	
H-14-1	一括	須恵器	①(13.0)②(8.0)	①細粒②良好 ③褐色④1/2	輪軸整形。やや丸みを持ち外傾。底部回転糸切り無調整、右回り。	
H-14-2	N6	土器器	①(14.5) ②(18.3) ③(18.6)	①細粒②良好③鈍い褐色 ④口縁から削り跡/5	球形。頭部頸やかな「く」の字。内面凹削前、擦で。口縁横擦で。外面削部削り、摩打音。	
H-15-1	一括	須恵器	②(7.0)	①細粒②良好③褐色 ④体部から底部/5	輪軸整形。やや丸みを持ち外傾。底部回転糸切り無調整、右回り。	
H-15-2	かN2.2	須恵器	①(13.7)②(7.6) ③(4.0)	①細粒②不良 ③鈍い褐色④2/3	輪軸整形。やや丸みを持ち外傾。回転糸切り無調整、右回り。	
H-15-3	かN1	土器器	①(12.0)②(9.8) ④(3.2)	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2	平底、丸みを持ち外傾。内面擦で。口縁横擦で。外面底部削り、擦で、摩打音。	
H-15-4	かN1.1	土器器	①(13.0)②(9.7) ④(3.4)	①細粒②良好 ③褐色④2/5	平底、やや丸みを持ち外傾。内面擦で。口縁横擦で。外側底部削り、擦で、指押さえ。	
H-15-5	一括	土器器	①(15.0) ③(15.5)④(6.0)	①細粒②良好③次赤褐色 ④口縁から削り跡/5	丸みを持ち、頭部頸やかな「く」の字。内面凹削り無調整で。口縁横擦え横削り。外面削部削り。	
H-16-1	貯蔵火 一括	土器器	①(12.2)②(8.7) ④(3.1)	①細粒②良好 ③鈍い褐色④2/5	平底、丸みを持ち外傾。内面擦で。口縁横擦で。外面底部擦で、指押さえ。	
H-17-1	一括	土器器	①(12.7) ④(2.8)	①細粒②良好 ③褐色④1/6	丸底、棱を持ち口縁外傾。内面擦で。口縁横擦で。外面底部削り。	
H-18-1	かN13	土器器	①(24.5) ③(21.5)④(5.0)	①細粒②良好 ③赤褐色④口縁から削り跡/5	頭部頸やかな「く」の字内面擦で。口縁横擦で。外面削部削り。	
H-19-1	かN1	土器器	①(15.2) ④(3.2)	①細粒②良好 ③明褐色④2/2	平底に近い丸底。内面擦で。口縁横擦で。外面底削り、指押さえ、摩打音。	
H-19-2	一括	土器器	②(15.2) ④(2.5)	①細粒②良好 ③褐色④1/6	平底に近い丸底。皿状。内面擦で。口縁横擦で。外面底部削り。	
D-46-1	かN3	土器器	①(12.7)②(12.6) ④(3.1)	①細粒②良好 ③明褐色④1/2	輪軸整形。平底に近い丸底。内面輪軸擦で。口縁横擦。	
D-46-2	かN4	土器器	①(12.8)②(13.0) ④(3.6)	①細粒②良好 ③褐色④1/5	輪軸整形。丸底、内面輪軸擦で。口縁輪軸擦で。外面底部削り難い後削削り。	
D-72-1	かN5	土器器	①(11.4)②(7.6) ④(2.8)	①細粒②良好 ③鈍い褐色④1/5	平底、外側が削り痕あり。内面擦で。口縁横擦で。外側底部削り、指押さえ。底部削り。	

注) 遺物観察表の記載は以下の基準で行った。

1. 胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とした。

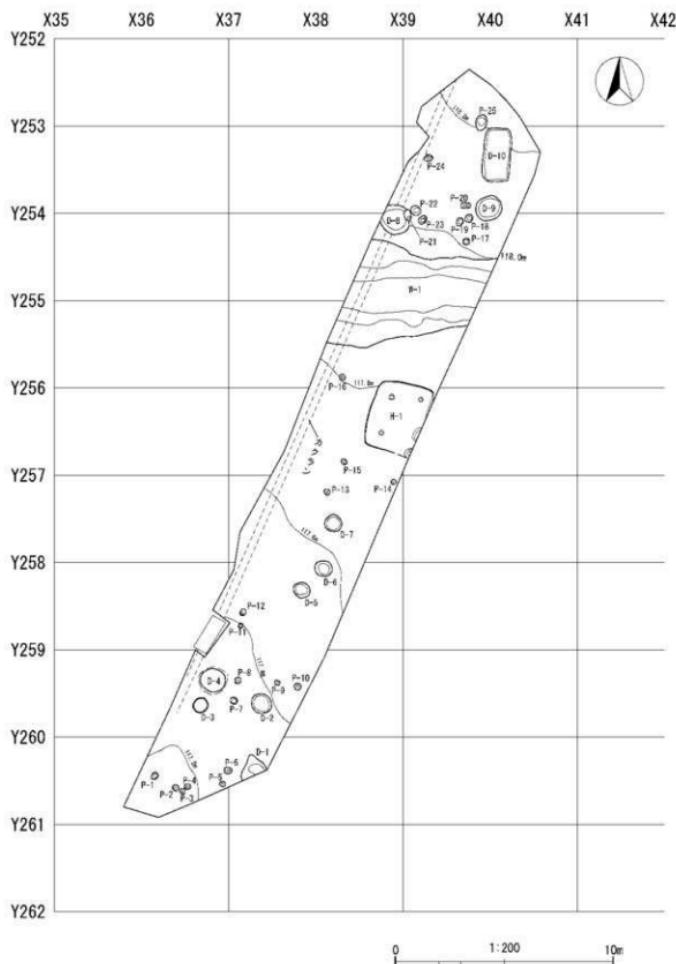
2. 焼成は、極良、良好、不良の3段階とした。

3. 色調は、土器外面で観察し、色名は「新版櫻塚土色図」(小山正忠・竹原秀雄1999)による。

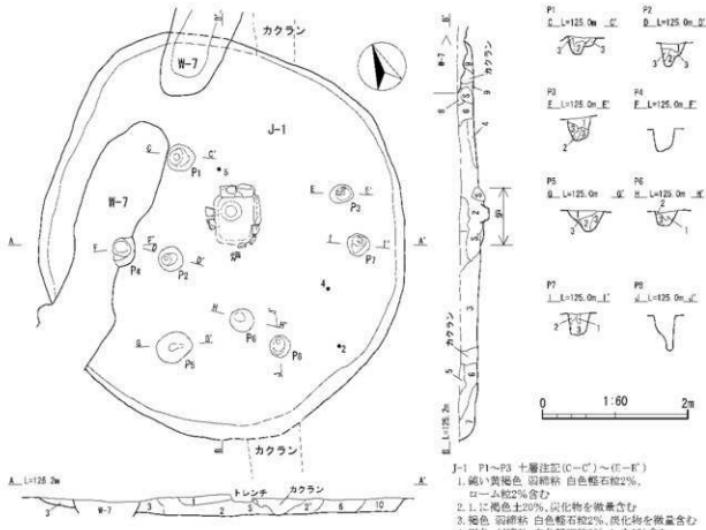
参考文献

- 五代江戸屋敷遺跡 2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代木福I遺跡 2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代木福II遺跡 2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代竹花遺跡 2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代伊勢宮I遺跡 2000 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代伊勢宮II遺跡 2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代伊勢宮III遺跡 2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代伊勢宮IV遺跡 2001 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代伊勢宮V遺跡 2002 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代伊勢宮VI遺跡 2002 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代竹花II遺跡 2003 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 五代深堀II遺跡 2004 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
 芳賀団地遺跡群第1巻 1984 前橋市教育委員会
 芳賀団地遺跡群第2巻 1988 前橋市教育委員会
 芳賀団地遺跡群第3巻 1990 前橋市教育委員会
 芳賀団地遺跡群第5巻 1994 前橋市教育委員会

第1調査区全体図



第5図 第1調査区全体図



- J-1 土岡注記(5'-a') (8'-g')
1. 黒褐色 岩縫隙 白色鮮石粒3%含む
 2. 黒褐色に暗褐色を露降り状に25%、岩縫隙、白色鮮石粒23%、炭化物を少量含む
 3. 黒褐色 岩縫隙 白色鮮石粒15%含む
 4. 黑褐色に暗褐色を露降り状に20%、岩縫隙、白色鮮石粒23%含む
 5. 黑褐色に暗褐色を露降り状に25%、岩縫隙、白色鮮石粒3%、ローム粒2%含む
 6. 黑褐色 岩縫隙 白色鮮石粒10%含む
 7. 黑褐色 岩縫隙 白色鮮石粒2%含む
 8. 黑褐色 岩縫隙 中等程度白色鮮石粒10%含む
 9. 黑褐色 岩縫隙 白色鮮石粒2%、炭化物を少量含む
 10. 黄褐色 中等程度白色鮮石粒3%、褐色10%、炭化物を少量含む

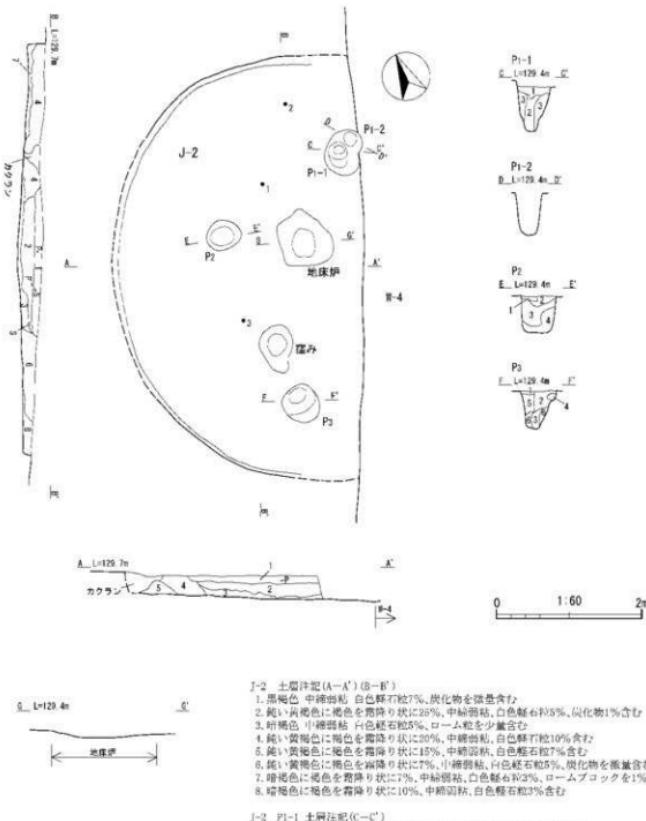
- J-1 P1~P3 上層注記(C'-c') ~ (E'-e')
1. 黄褐色 裂隙粘 白色鮮石粒1%、ローム粒2%含む
 2. 黑褐色 破壊粘 白色鮮石粒1%、炭化物を微量含む
 3. 黄褐色 裂隙粘 白色鮮石粒2%、炭化物を微量含む
 4. 黑褐色 岩縫隙 白色鮮石粒2%、炭化物を微量含む

- J-1 P5 上層注記(G'-g')
1. 黑褐色 岩縫隙 白色鮮石粒1%、ローム粒・ブロック2%含む
 2. 黑褐色 裂隙粘 白色鮮石粒1%、炭化物を微量含む
 3. 黑褐色 中等程度白色鮮石粒1%含む

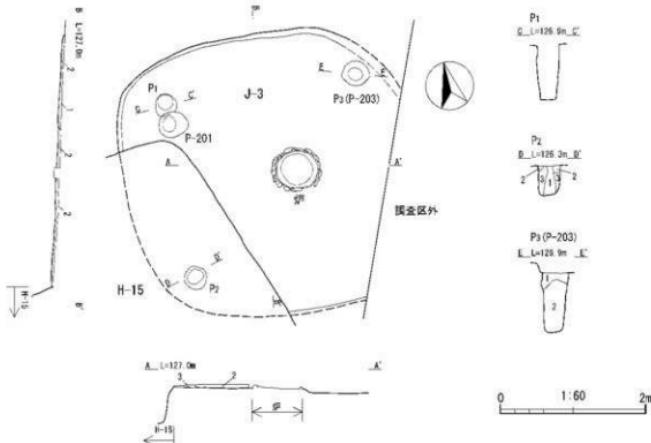
- J-1 P6 土層注記(H'-h')
1. 黄褐色 岩縫隙 白色鮮石粒1%、ローム粒・ブロック2%、炭化物を微量含む
 2. 黑褐色 中等程度白色鮮石粒1%、炭化物を微量含む
 3. 黑褐色 中等程度白色鮮石粒1%、炭化物を微量含む
- J-1 P7 上層注記(I'-i')
1. 黑褐色 岩縫隙 白色鮮石粒1%含む
 2. 黄褐色 中等程度白色鮮石粒1%、炭化物を微量含む
 3. 黑褐色 中等程度白色鮮石粒2%、ローム粒・ブロック1%含む

- J-1 I' 上層注記(K'-k') ~ (L'-l')
1. 黑褐色 岩縫隙 白色鮮石粒2%含む
 2. 黑褐色 岩縫隙 白色鮮石粒2%含む
 3. 黑褐色 岩縫隙 白色鮮石粒2%、ローム粒・ブロック1%含む
 4. 褐褐色 中等程度白色鮮石粒1%、炭化物を微量含む
 5. 黑褐色 中等程度白色鮮石粒1%含む
 6. 黄褐色 中等程度白色鮮石粒2%、土砂2%含む
 7. 黑褐色 中等程度白色鮮石粒2%、土砂1%含む
 8. 黄褐色 中等程度白色鮮石粒2%、土砂1%含む
 9. 黑褐色 中等程度白色鮮石粒1%、ローム粒・ブロック7%含む
 10. 黑褐色 中等程度白色鮮石粒1%含む
 11. 黑褐色 中等程度白色鮮石粒1%含む
 12. 黄褐色 岩縫隙 白色鮮石粒1%含む
 13. 14. 土上層を少量含む

第9図 J-1号住居跡



第10図 J-2号住居跡



J-3 土層注記(A-A') 0'-0''

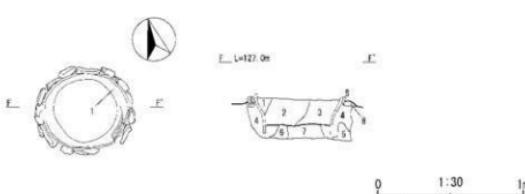
1. 黄褐色 中細粒粘 白色輕石粒2%, ロームブロック2%, 黒色土10%, 腐化物を少量含む
2. 黄褐色 中細粒粘 白色輕石粒2%, ローム粒2%, 腐化物1%含む
3. 黄褐色 粗粒粘 白色輕石粒3%, ローム粒15%, 黑褐色土10%, 腐化物を少量含む

J-3 P2 十層注記(0'-0'')

1. 黄褐色 粗粒粘 白色輕石粒1%, 腐化物を少量含む
2. 黄褐色 粗粒粘 白色輕石粒1%, ローム粒15%, 黑褐色土10%, 腐化物を少量含む
3. 黄褐色 粗粒粘 白色輕石粒1%, ローム粒2%, 黑褐色土3%, 腐化物を少量含む

J-3 P3 (P-203) 十層注記(0'-0'')

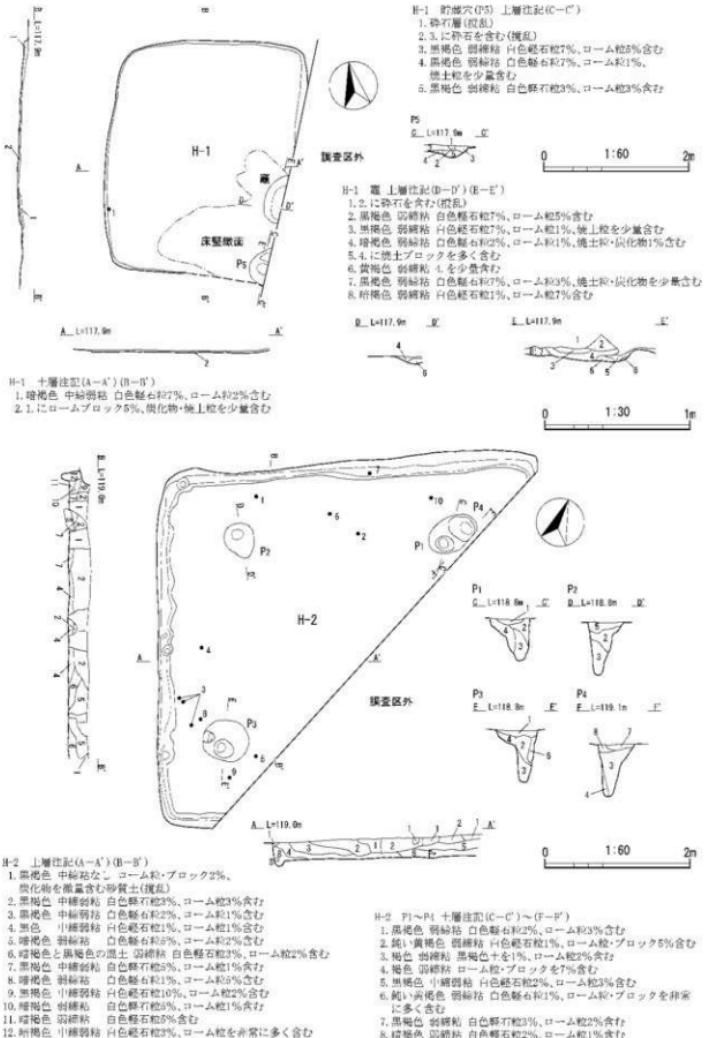
1. 單純色 細粒粘 白色輕石粒2%, ローム粒3%, 腐化物を少量含む
2. 單純色 細粒粘 白色輕石粒2%, ローム粒2%, 腐化物2%含む



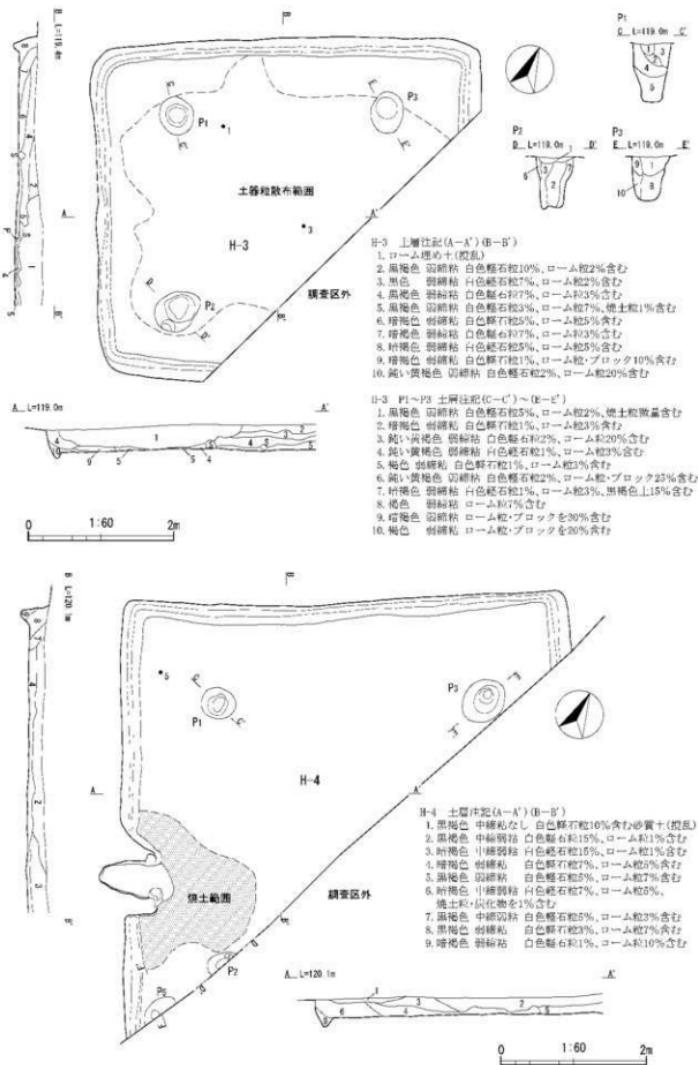
J-3 土層注記(0'-0'')

1. 黄褐色 中細粒粘 白色輕石粒3%, 黑土粒, 腐化物を微量含む
2. 黑褐色に高い黄褐色を露降り状に20%, 中細粒粘, 白色輕石粒3%, 腐化物1%, 腐土粒を微量含む
3. 黄褐色に高い黄褐色を露降り状に30%, 中細粒粘, 白色輕石粒3%, 腐化物1%, 黑土粒を微量含む
4. 黑褐色に高い黄褐色を露降り状に20%, 中細粒粘, 白色輕石粒3%, ローム粒1%含む
5. ロームブロック
6. 黄褐色 中細粒粘 白色輕石粒3%, 黑土粒2%, ローム粒, ブロックを非常に多く含む
7. 黄褐色 中細粒粘 白色輕石粒3%, 腐化物1%, 鉱土粒を微量, 黄褐色土10%含む
8. 黄褐色 中細粒粘 白色輕石粒2%含む

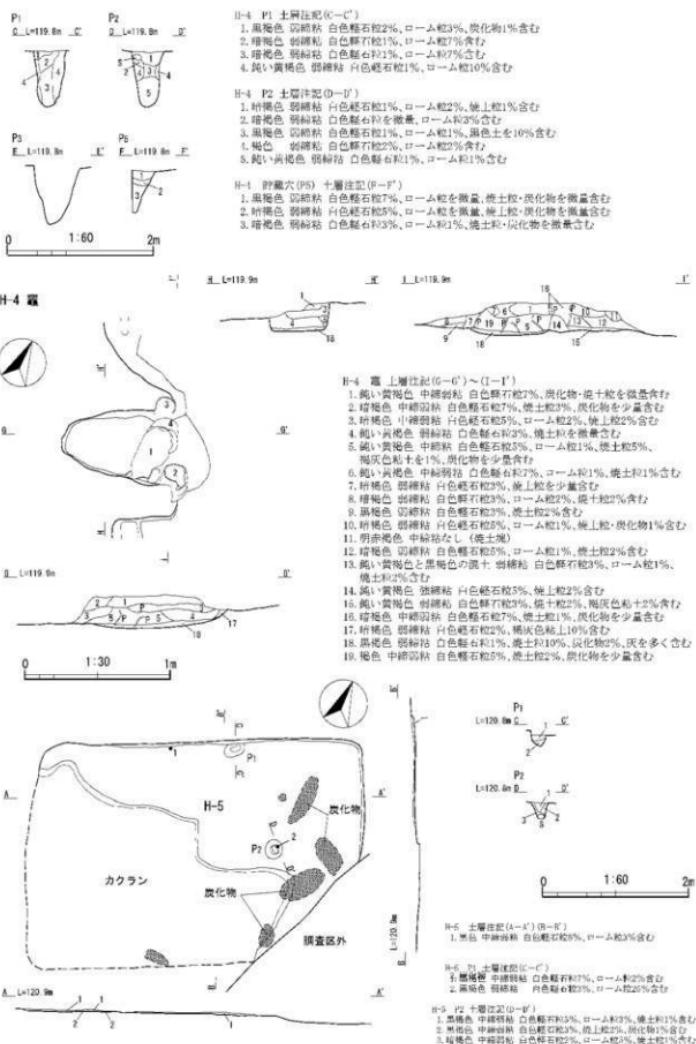
第11図 J-3号住居跡



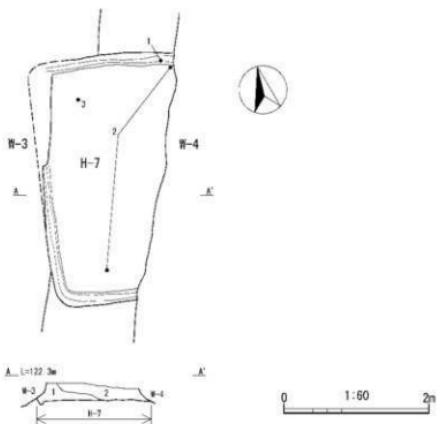
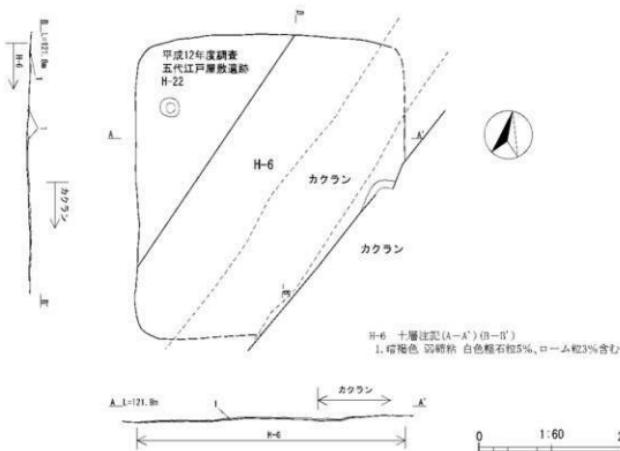
第12図 H-1・2号住居跡



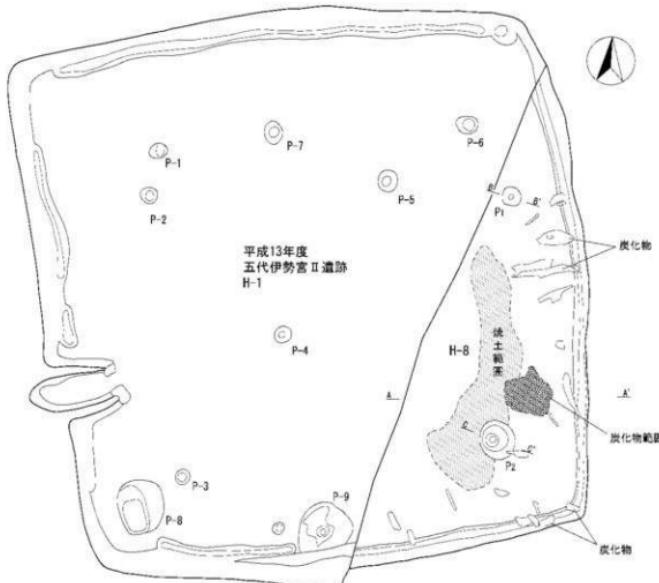
第13図 H-3・4号住居跡



第14図 H-4・5号住居跡



第15図 H-6・7号住居跡



H-8 土層注記(A-A')

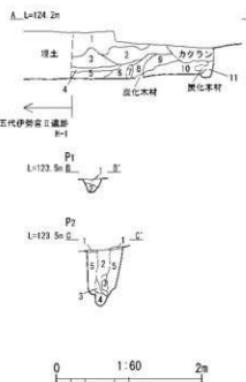
1. 黒褐色 勝縫粘 白色軽石粒2%、ローム粒1%、炭土粒・炭化物を少量含む
2. 黑褐色 勝縫粘 白色軽石粒7%、ローム粒2%、炭土粒・炭化物を少量含む
3. 黑褐色 勝縫粘 白色軽石粒2%、ローム粒2%、炭土粒2%、炭化物を少量含む
4. 黑褐色 勝縫粘 白色軽石粒2%、ローム粒1%、炭土粒1%、炭化物を少量含む
5. 黑褐色 勝縫粘 白色軽石粒2%、ローム粒1%、炭土粒1%、炭化物約1%含む
6. 棕褐色 勝縫粘 白色軽石粒2%、ローム粒2%、炭土粒・炭化物を微量含む
7. 棕褐色 勝縫粘 白色軽石粒2%、ローム粒2%、炭土粒・炭化物を微量含む
8. 棕褐色 勝縫粘 白色軽石粒2%、ローム粒2%、炭土粒2%、炭化物3%含む
9. 棕褐色 勝縫粘 白色軽石粒3%、ローム粒2%、炭土粒1%、炭化物を少量含む
10. 褐い黄褐色 勝縫粘 白色軽石粒3%、ローム粒2%、ブロック5%含む
11. 棕褐色 勝縫粘 白色軽石粒3%、ローム粒、ブロック20%含む

H-8 P1 上層注記(B-B')

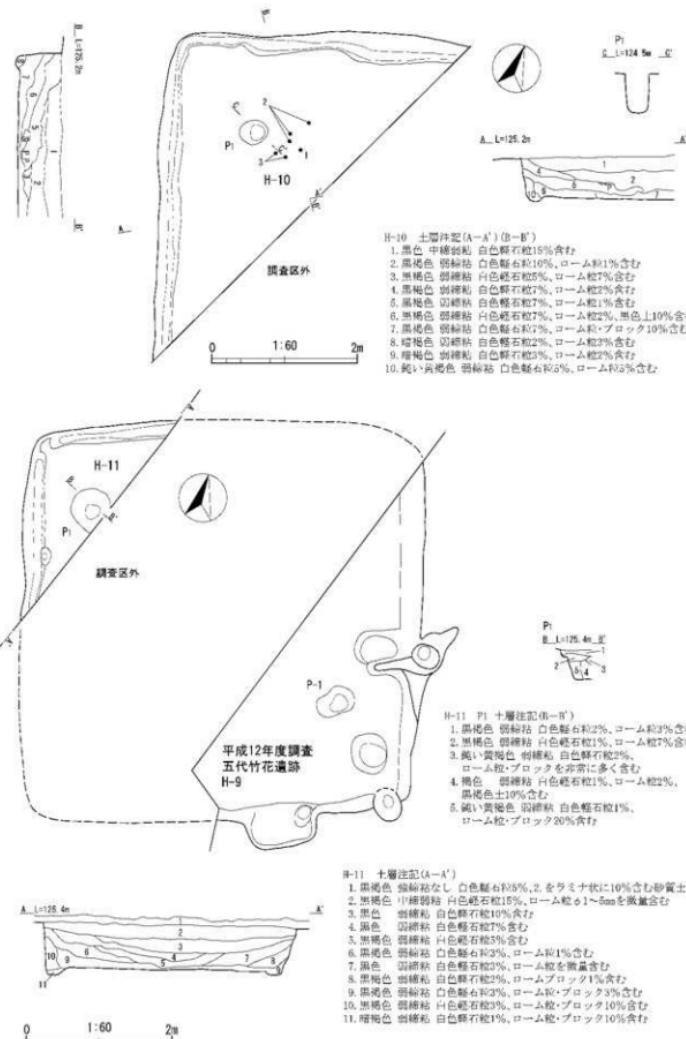
1. 黑褐色と黒褐色の混土 勝縫粘 白色軽石粒2%、炭土10%含む
2. 黄褐色 勝縫粘 白色軽石粒2%、ローム粒2%、炭化物2%含む

H-8 P2 土層注記(C-C')

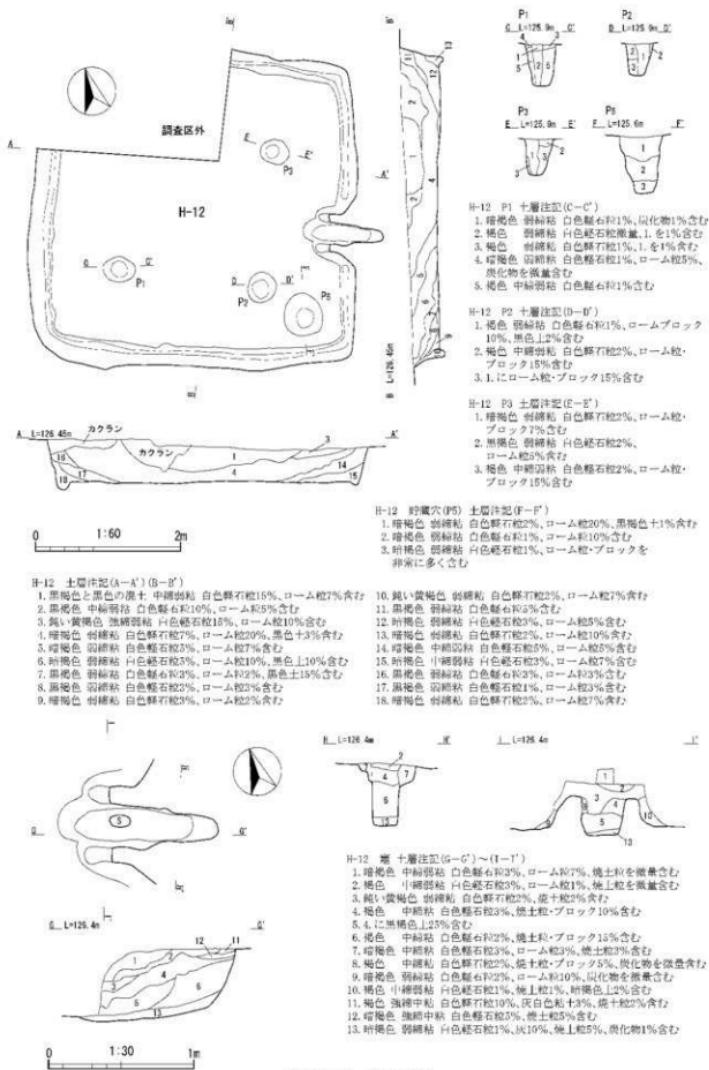
1. 黑褐色 勝縫粘 白色軽石粒2%、炭土粒を非常に多く含む
2. 棕褐色 勝縫粘 炭土粒・ブロック1%、炭化物2%含む
3. 黑褐色 勝縫粘 炭土粒1%含む
4. 黄い黄褐色 勝縫粘 白色軽石粒少量含む
5. 褐い黄褐色 勝縫粘 白色軽石粒2%、ローム粒・ブロックを非常に多く含む



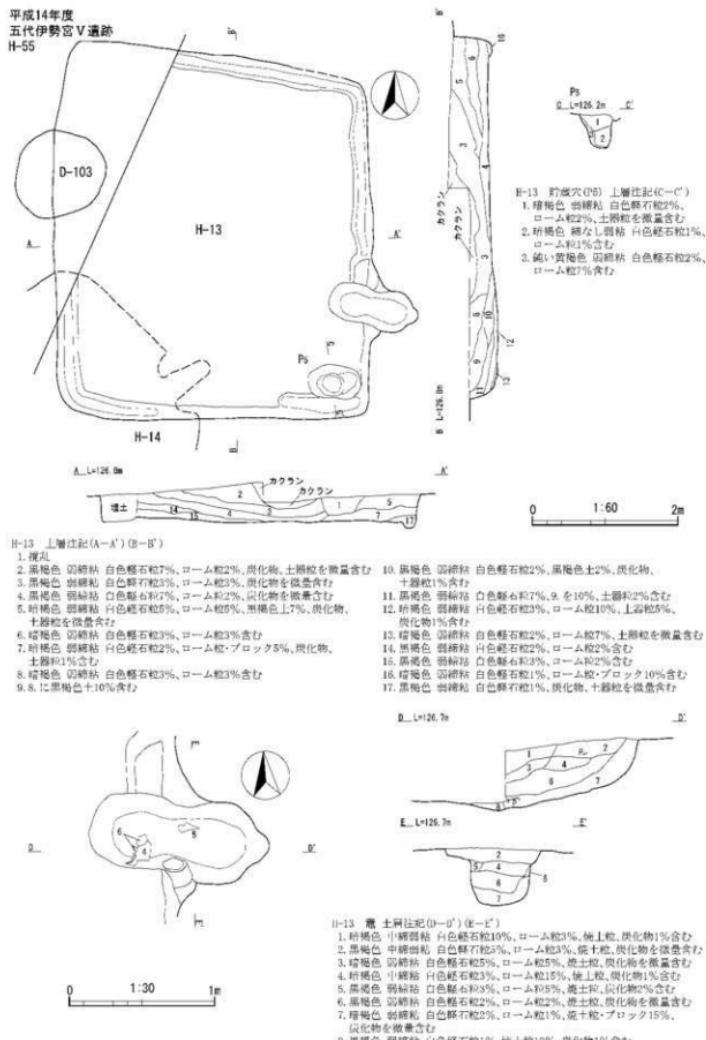
第16図 H-8号住居跡



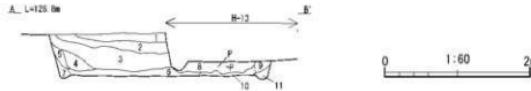
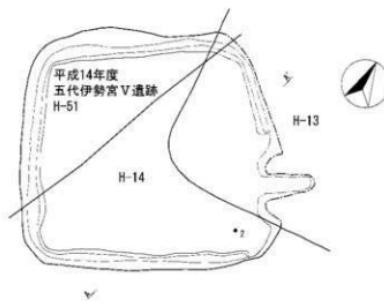
第17図 H-10・11号住居跡



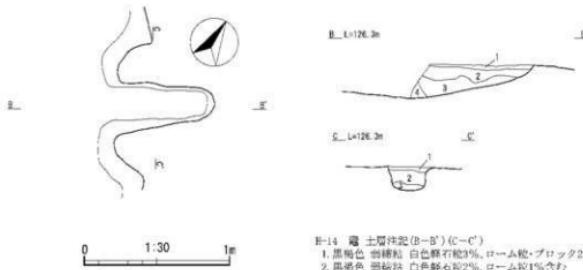
第18図 H-12号住居跡



第19図 H-13号住居跡

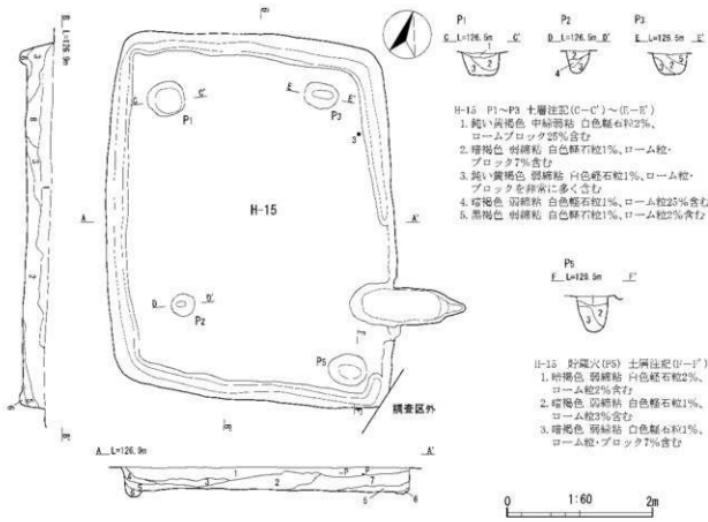


- H-14 十層注記(A-A')
1. 黒褐色 剥離粘 白色礫石粒10%、ローム粒1%、土器粒を微量含む
 2. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒7%、ローム粒、炭化物、上器粒を微量含む
 3. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒25%、ローム粒25%、土器粒5%含む
 4. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒7%、ローム粒3%含む
 5. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒2%、ローム粒1%含む
 6. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒1%、ローム粒2%含む
 7. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒22%、ローム粒、ブロック10%含む
 8. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒25%、ローム粒2%、灰十粒、炭化物を微量含む
 9. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒22%、ローム粒25%含む
 10. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒2%、ローム粒25%含む
 11. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒2%、ローム粒、ブロック30%含む

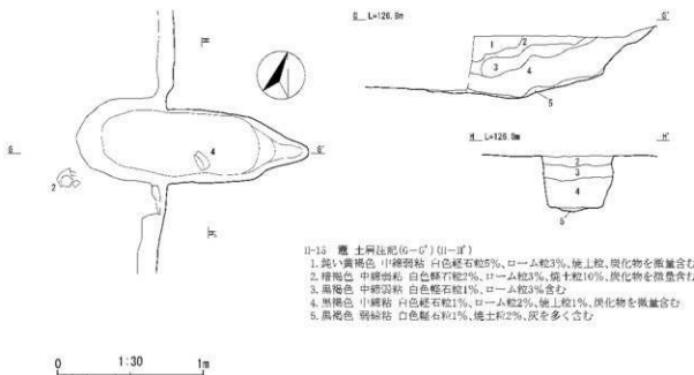


- H-14 図 土器性記(B-B')(C-C')
1. 黒褐色 剥離粘 白色礫石粒3%、ローム粒、ブロック2%含む
 2. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒2%、ローム粒1%含む
 3. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒1%、ローム粒、ブロック30%含む
 4. 黑褐色 剥離粘 白色礫石粒1%、ローム粒2%、灰十粒3%含む

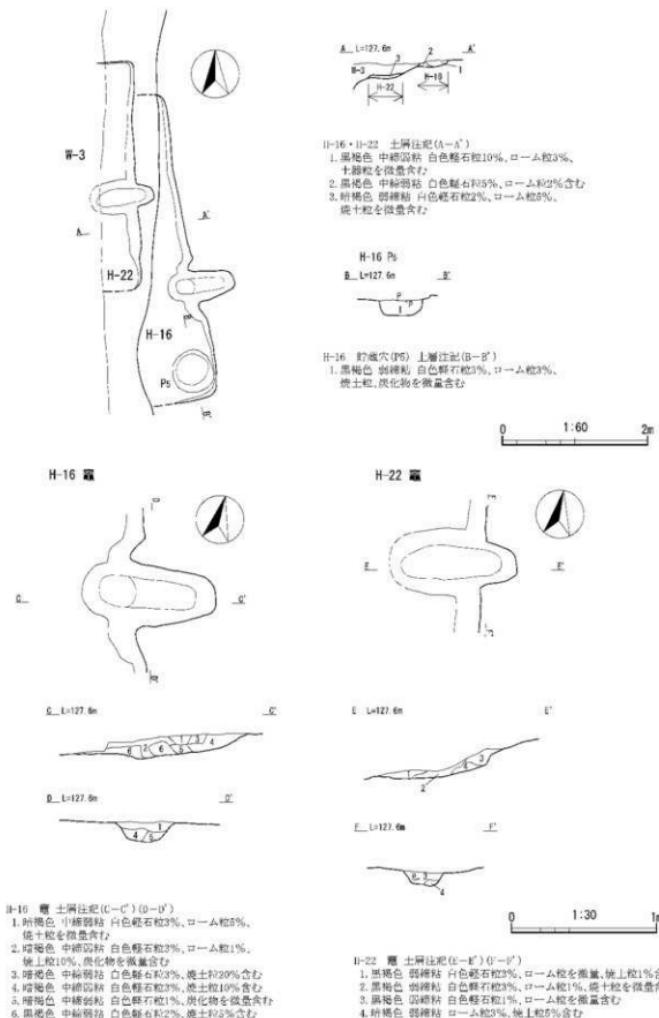
第20図 H-14号住居跡



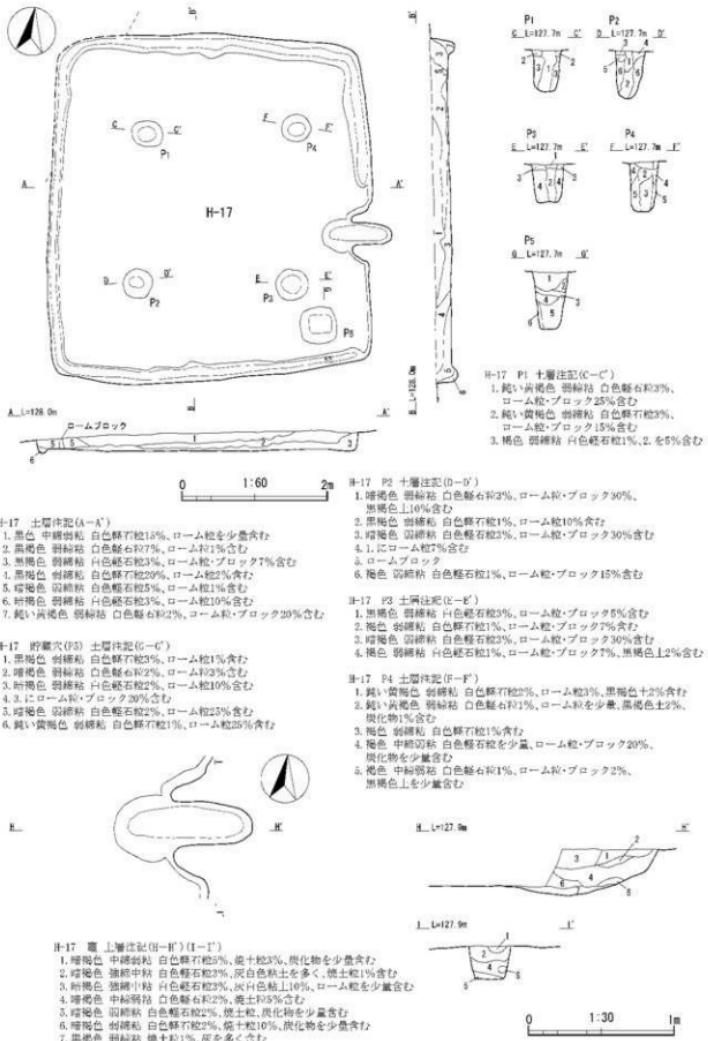
- H-15. 七層注記 (A-A') (B-B')
1. 黄褐色 中砂弱粘 白色砾石粒7%、ローム粒3%、炭化物1%、塊土粒を微量含む
 2. 緑褐色 中砂弱粘 白色砾石粒3%、ローム粒10%、黒褐色1.2%、上部と1%含む
 3. 黑褐色 剥離粘 白色砾石粒2%、ローム粒2%、黒褐色1%含む
 4. 黄褐色 弱繊粘 白色砾石粒2%、ローム粒2%、炭化物を少量含む
 5. 緑褐色 弱繊粘 白色砾石粒2%、ローム粒3%、炭化物を少量含む
 6. 良い黄褐色 弱繊粘 白色砾石粒1%、ローム粒3%含む
 7. 緑褐色 弱繊粘 白色砾石粒2%、ローム粒2%、土跡粒1%、炭化物を少量含む
 8. 緑褐色 弱繊粘 白色砾石粒3%、ローム粒2%、炭化物を少量含む



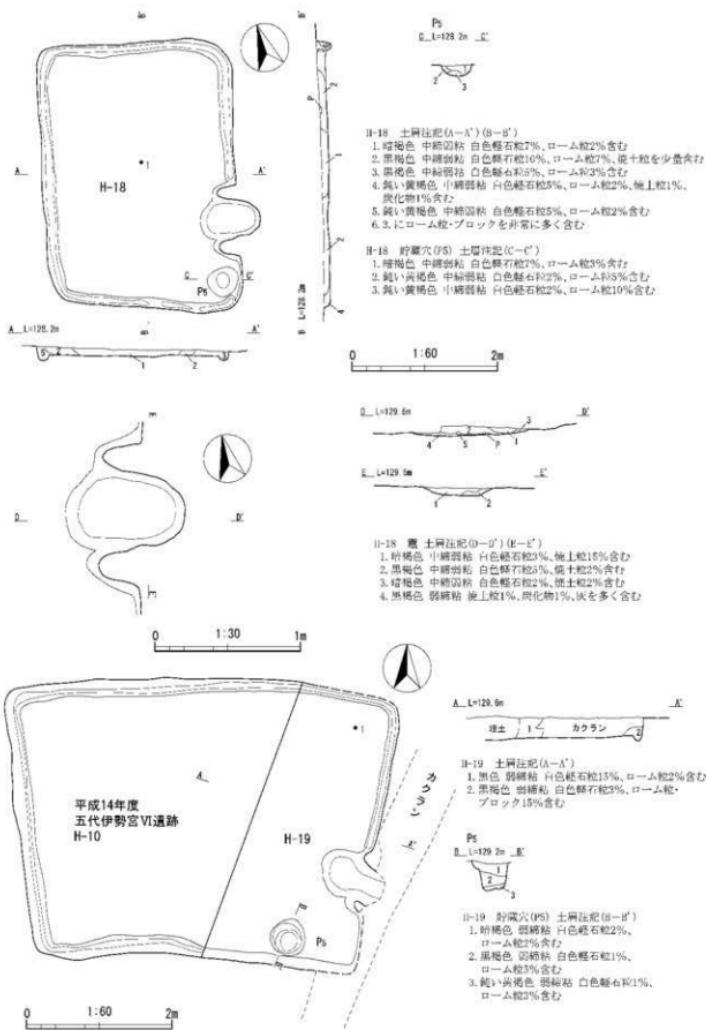
第21図 H-15号住居跡



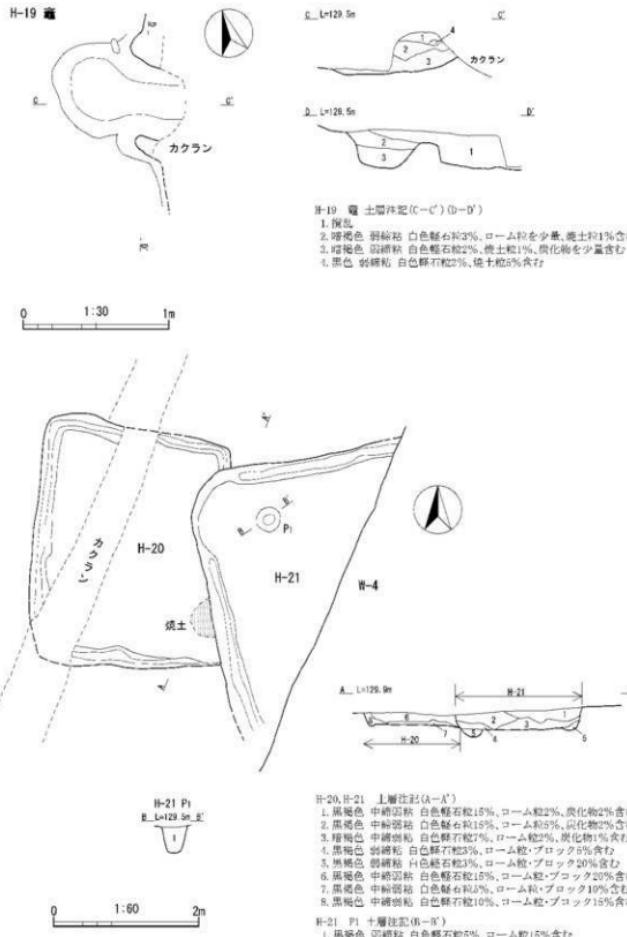
第22図 H-16・22号住居跡



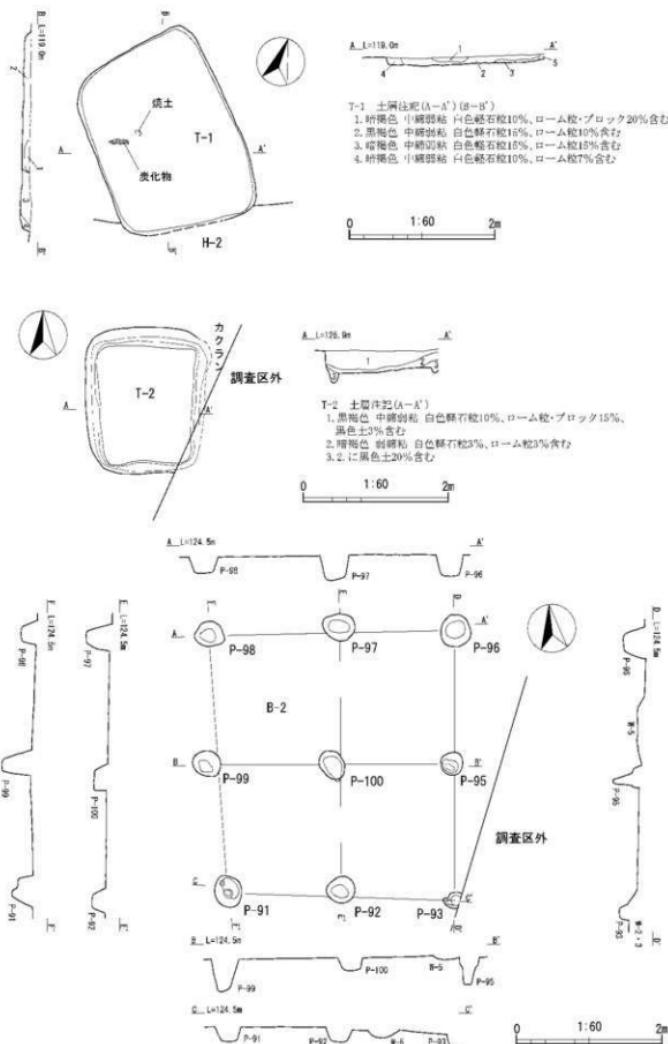
第23図 H-17号住居跡



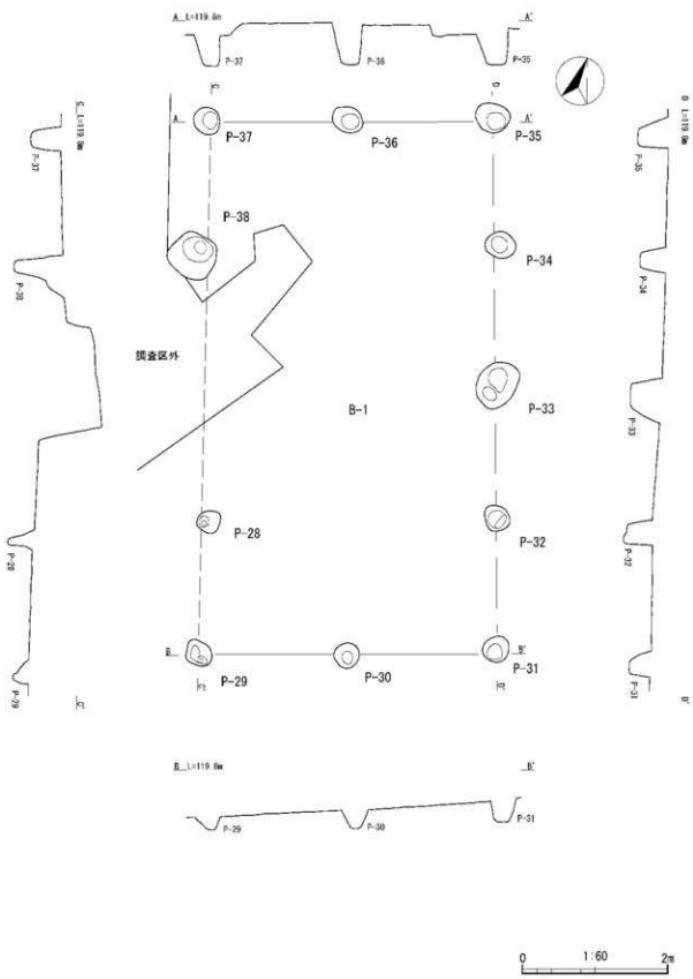
第24図 H-18・19号住居跡



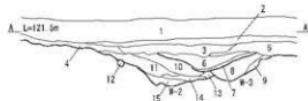
第25図 H-19・20・21号住居跡



第26図 T-1・2号竪穴状遺構、B-1号掘立柱建物跡



第27図 B-2号掘立柱建物跡



W-2 × 3 (第二剖面調査区域) 土層注記 (A-A')

1. 砂石 (塊石)
2. ローム (塊石)
3. 黒褐色 中綿粘なし 白色輕石粒2%、ローム粒を微量、砂を多く含む砂質土
4. 黒褐色 小綿粘なし 白色輕石粒1%、砂を多く含む砂質土
5. 黑褐色 中綿粘なし 白色輕石粒2%、ローム粒・ブロック5%、砂を多く含む砂質土
6. 黑褐色 脆綿粘なし 白色輕石粒2%、ローム粒・ブロック10%、砂を多く含む砂質土
7. 黑褐色 脆綿粘なし 白色輕石粒5%、ローム粒1%、砂を多く含む砂質土
8. 黑褐色 強綿粘なし 白色輕石粒2%、ローム粒1%、砂を多く小綿粘少量含む砂質土
9. 黑褐色 脆綿粘なし 白色輕石粒3%、ローム粒5%含む
10. 黑褐色 中綿粘なし 白色輕石粒1%、ローム粒を微量、砂を多く含む砂質土
11. 黑褐色 強綿粘 白色輕石粒1%、砂をやや多く含む
12. H-2 にローム粒を微量、砂を含む
13. 黑褐色 強綿粘 白色輕石粒1%、ローム粒を微量含む
14. 黑褐色 強綿粘なし 白色輕石粒1%、砂と鉄分凝聚がラミナ状に堆積
15. 黑褐色 強綿粘なし H-2に白色輕石粒1%、ローム粒3%、砂をやや多く含む砂質土



B-B' (第四剖面調査区域) 土層注記 (B-B')

1. 黑褐色 強綿粘なし 白色輕石粒2%、ローム粒を微量、砂を多く含む砂質土
2. 黑褐色 中綿粘なし 白色輕石粒3%、砂を多く含む砂質土
3. 黑褐色 強綿粘なし 白色輕石粒2%、ローム粒を微量、砂を多く含む砂質土
4. 黑褐色 中綿粘なし 白色輕石粒2%、ローム粒・ブロック20%、鐵土粒1%含む
5. 黑褐色 強綿粘なし 白色輕石粒2%含む
6. 黑褐色 強綿粘なし 白色輕石粒2%、ローム粒を微量、砂を多く含む砂質土
7. 黑褐色 強綿粘なし 白色輕石粒1%、ローム粒15%、砂を多く含む砂質土
8. 黑褐色 強綿粘 白色輕石粒2%、ローム粒1%含む
9. 5. にローム粒1%含む
10. 黑褐色 脆綿粘なし 白色輕石粒2%、ローム粒3%、砂を多く含む砂質土
11. 黑褐色 強綿粘なし 白色輕石粒2%、ローム粒を少量、砂を多く含む砂質土
12. 黑褐色 強綿粘 白色輕石粒2%、ローム粒5%含む
13. 黑褐色 強綿粘 白色輕石粒2%、ローム粒1%含む
14. 黑褐色 中綿弱粘 白色輕石粒2%、ローム粒を少量含む
15. 黑褐色 強綿粘 白色輕石粒1%、ローム粒7%含む
16. 黑褐色 中綿弱粘 白色輕石粒1%、ローム粒・ブロック15%含む
17. 黑褐色 強綿粘 白色輕石粒1%、ローム粒3%、赤褐色の酸化鉄あり



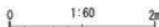
C-C' (第五剖面調査区域) 土層注記 (C-C')

1. 黑褐色 強綿粘なし 白色輕石粒15%、ローム粒・ブロック5%含む砂質土

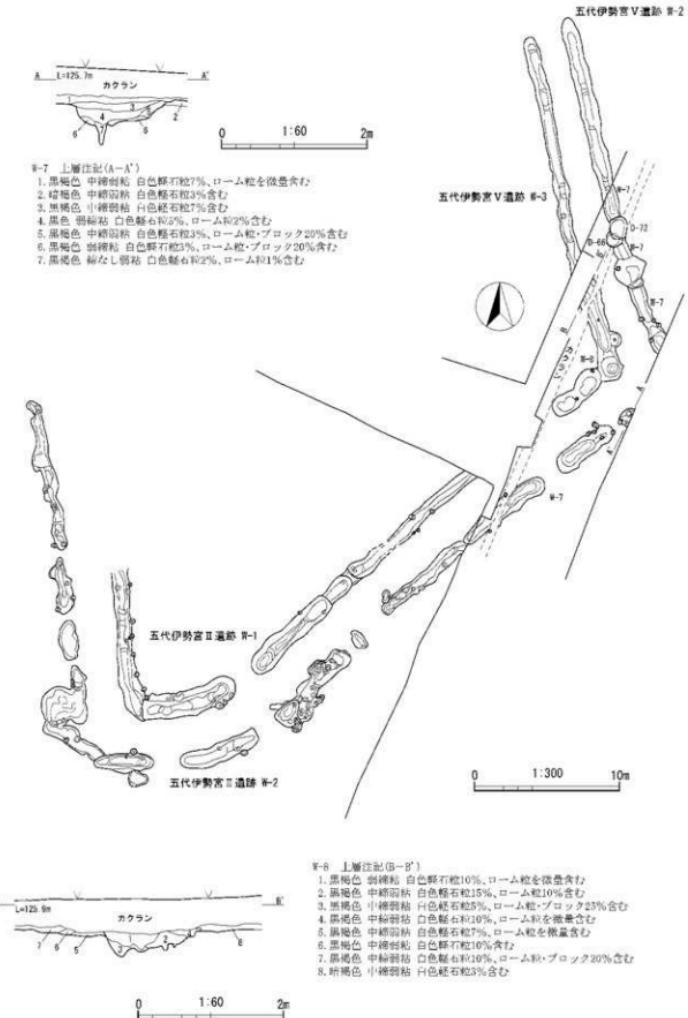


D-D' (第六剖面調査区域) 土層注記 (D-D')

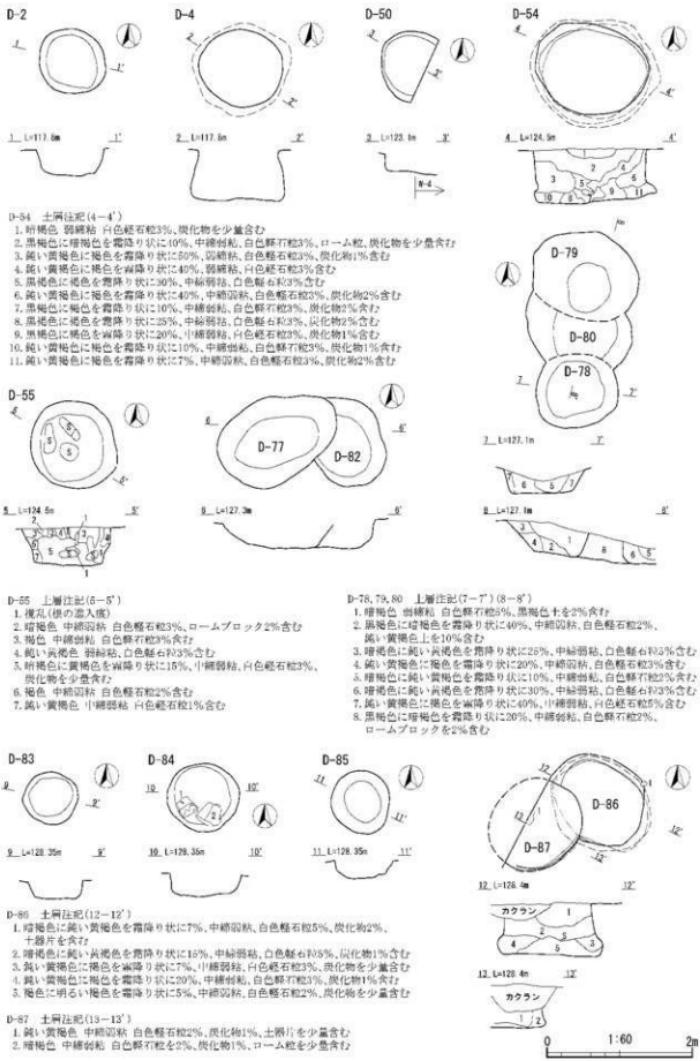
1. 黑褐色 強綿弱粘 白色輕石粒10%、ローム粒を少量含む



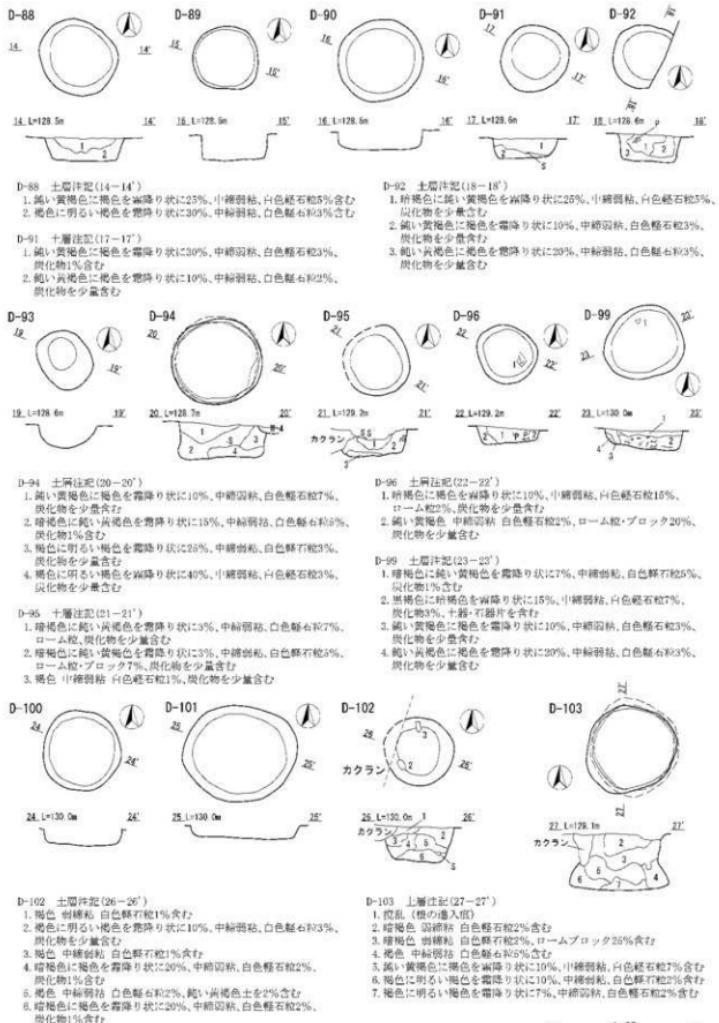
第28図 W-2 × 3 × 5 × 6号溝跡断面図



第29図 W-7・8溝跡

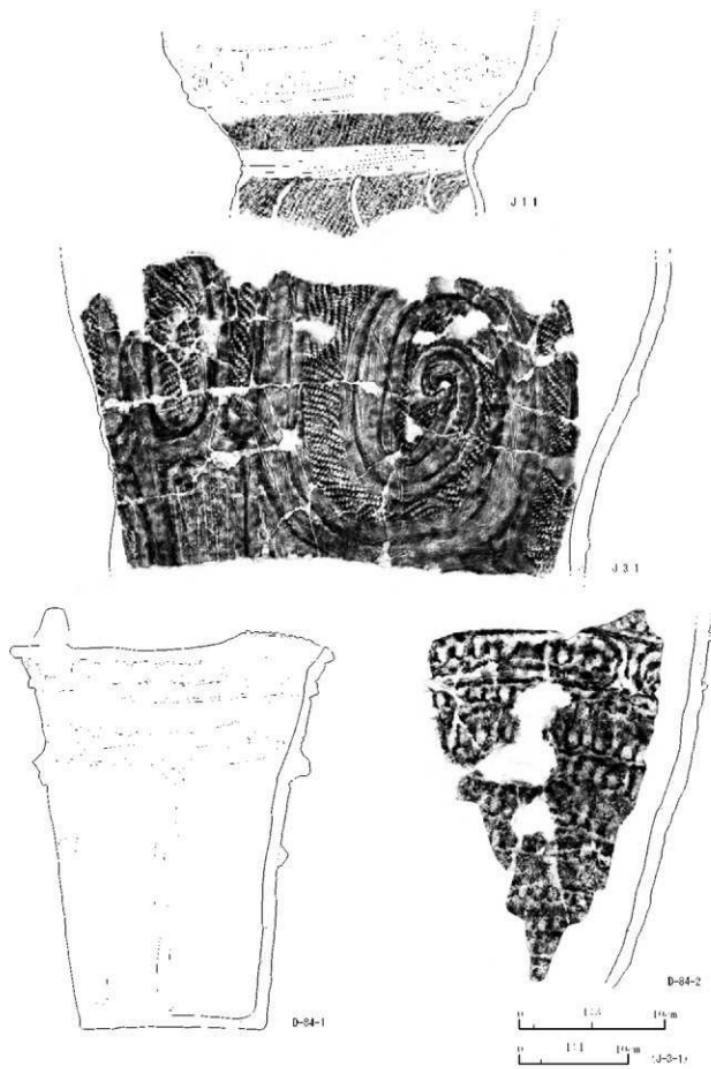


第30図 D-2・4・50・54・55・77~80・82~87号土坑

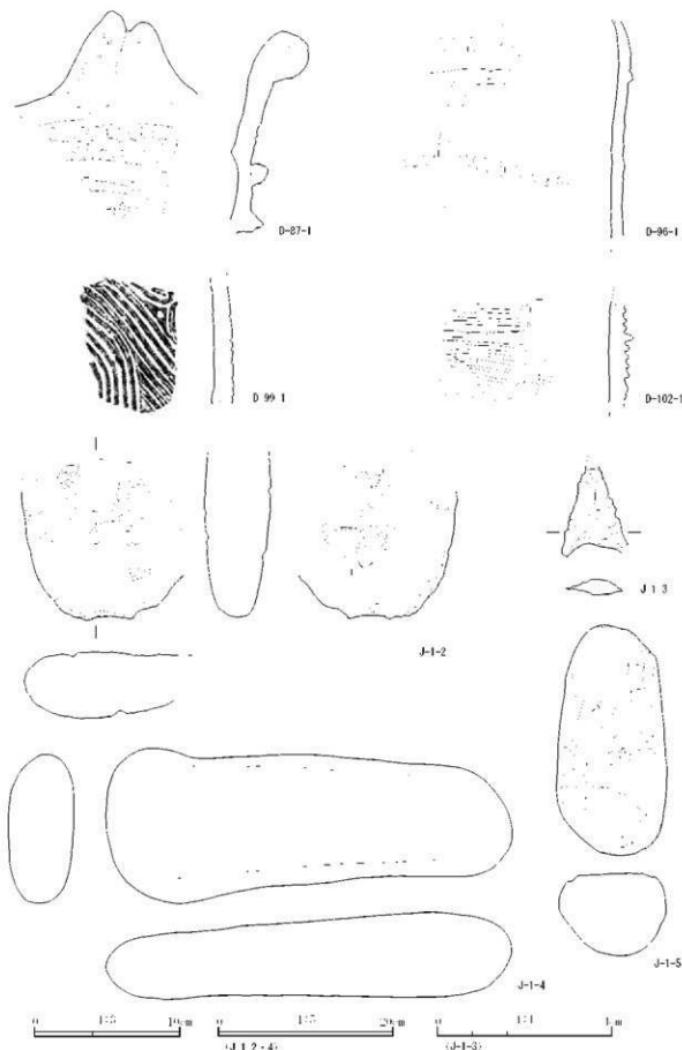


0 1.60 2m

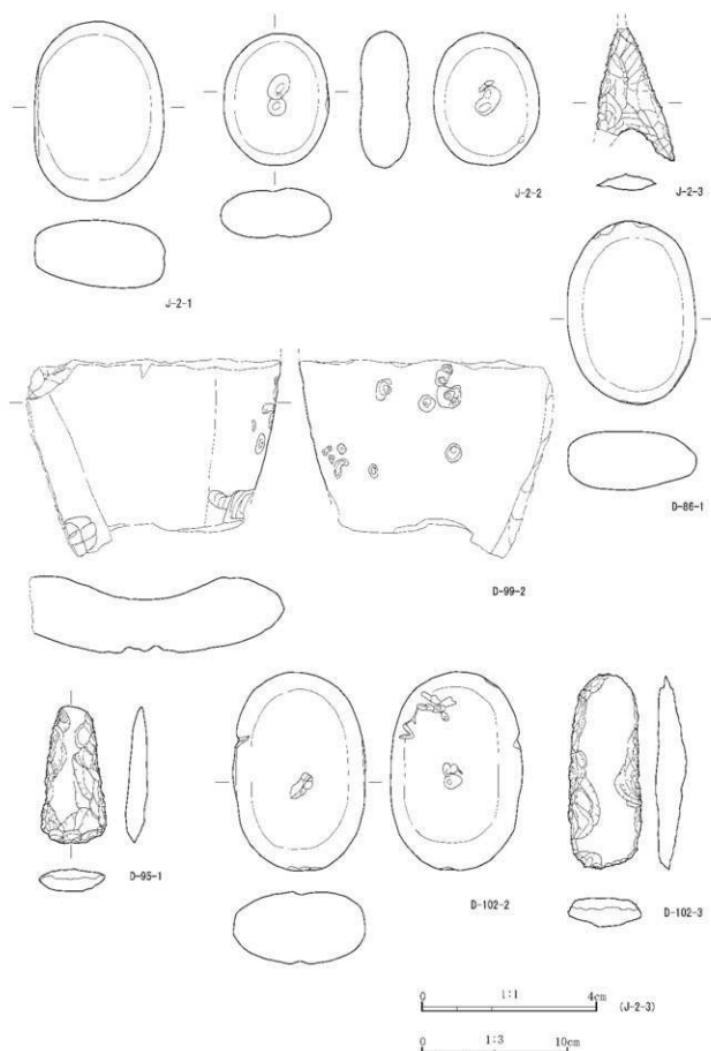
第31図 D-88~96・99~103号土坑



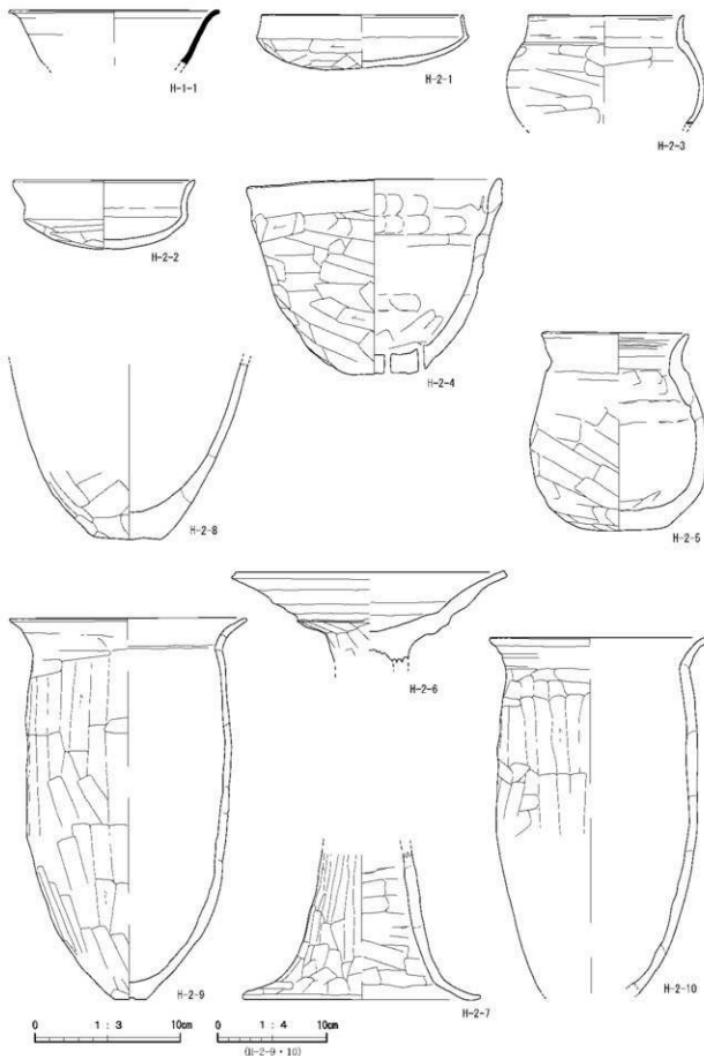
第32图 J-1+3号住居跡、D-84号土坑出土遺物



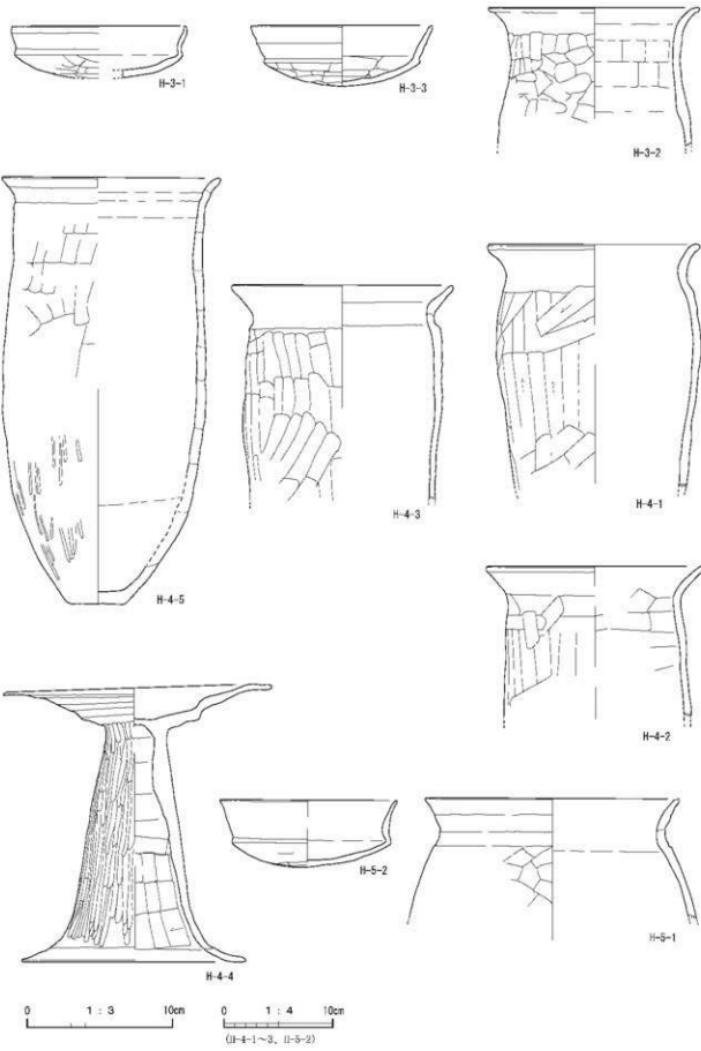
第33图 D-87·96·99·102号土坑、J-1号住居跡出土遺物



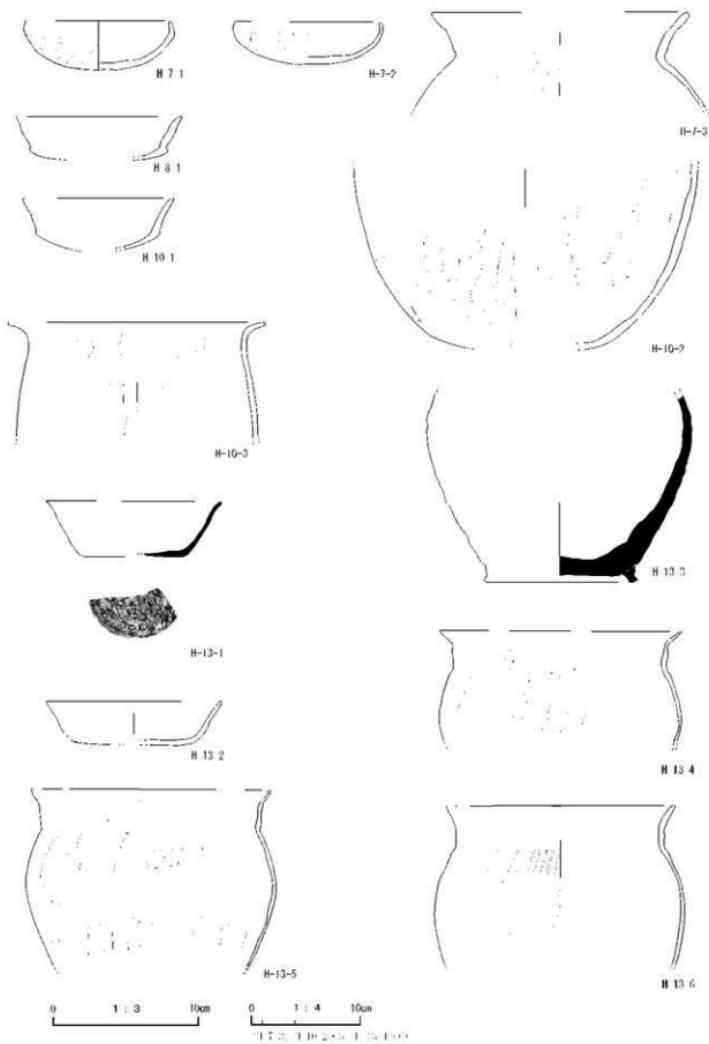
第34図 J-2号住居跡、D-86・95・99・102号土坑出土遺物



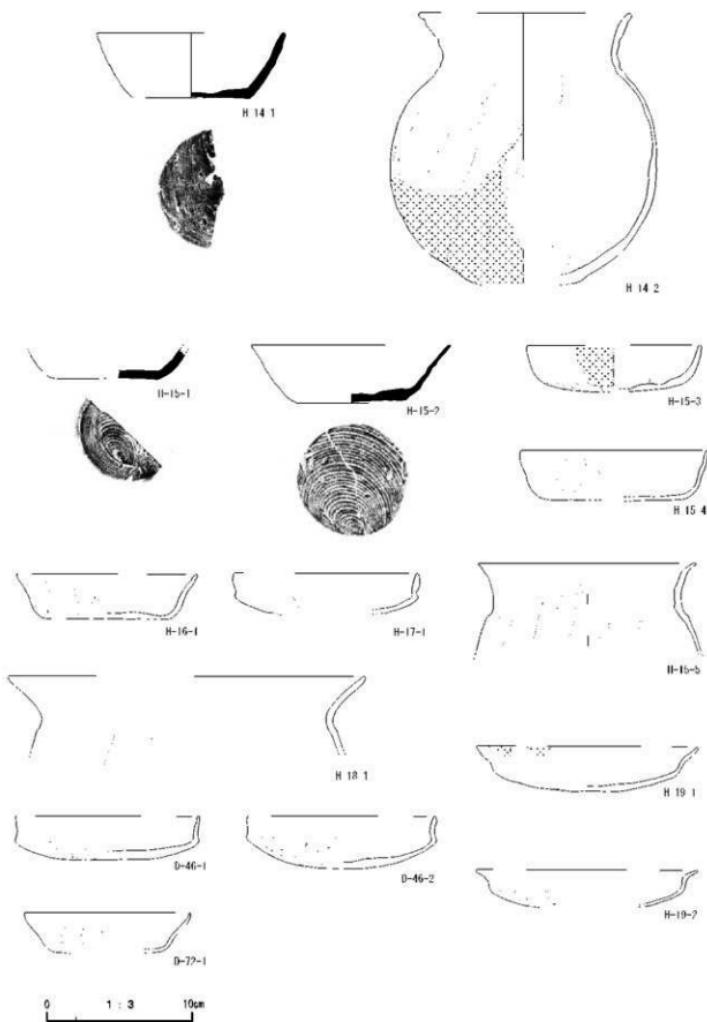
第35図 H-1・2号住居跡出土遺物



第36図 H-3～5号住居跡出土遺物



第37图 H-7·8·10·13号住居跡出土器物



第38图 H-14~19号灰陶器、D-46·1/2号土坑出土器物



五代伊勢宮遺跡(1) 第1調査区全景（南側から）



五代伊勢宮遺跡(1) 第2調査区全景（北側から）

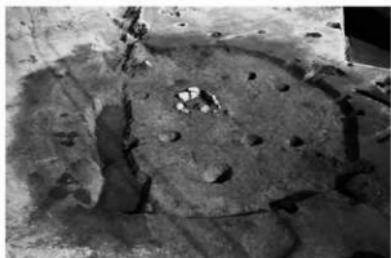
図版2



五代伊勢宮遺跡(1) 第3調査区全景（北側から）



五代伊勢宮遺跡(1) 第4調査区全景（北側から）



J-1号住居跡全景



J-1号住居跡 炉全景



J-2号住居跡全景



J-3号住居跡全景



J-3号住居跡 炉全景



H-1号住居跡全景



H-2号住居跡全景



H-2号住居跡遺物出土状況

图版4



H-3号住居跡全景



H-4号住居跡全景



H-4号住居跡 廉遺物出土状況



H-5号住居跡全景



H-6号住居跡全景



H-7号住居跡全景



H-8号住居跡全景



H-10号住居跡全景



H-11号住居跡全景



H-12号住居跡全景



H-12号住居跡 罂全景



H-13·14号住居跡全景



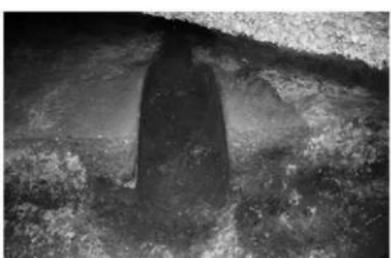
H-13号住居跡 罂全景



H-14号住居跡 罂全景



H-15号住居跡全景



H-15号住居跡 罂全景

图版6



H-16·22号住居跡全景



H-16号住居跡 窟全景



H-17号住居跡全景



H-17号住居跡 窟全景



H-18号住居跡全景



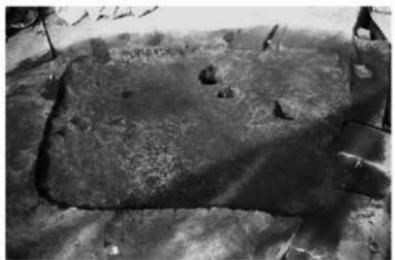
H-18号住居跡 窟全景



H-19号住居跡全景



H-20·21号住居跡全景



T-1号竖穴状遗构全景



T-2号竖穴状遗构全景



B-1号掘立柱建物跡全景



B-2号掘立柱建物跡全景



W-1号溝全景



W-2・3・4号溝全景（第3調査区）



W-6・7号溝全景



W-7・8号溝全景

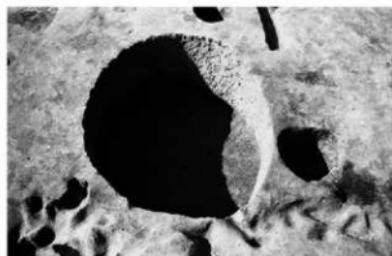
图版8



W-2·3·10号溝全景（第4調査区）



D-66·72号土坑断面



D-54号土坑全景



D-55号土坑全景



D-84号土坑遺物出土状況



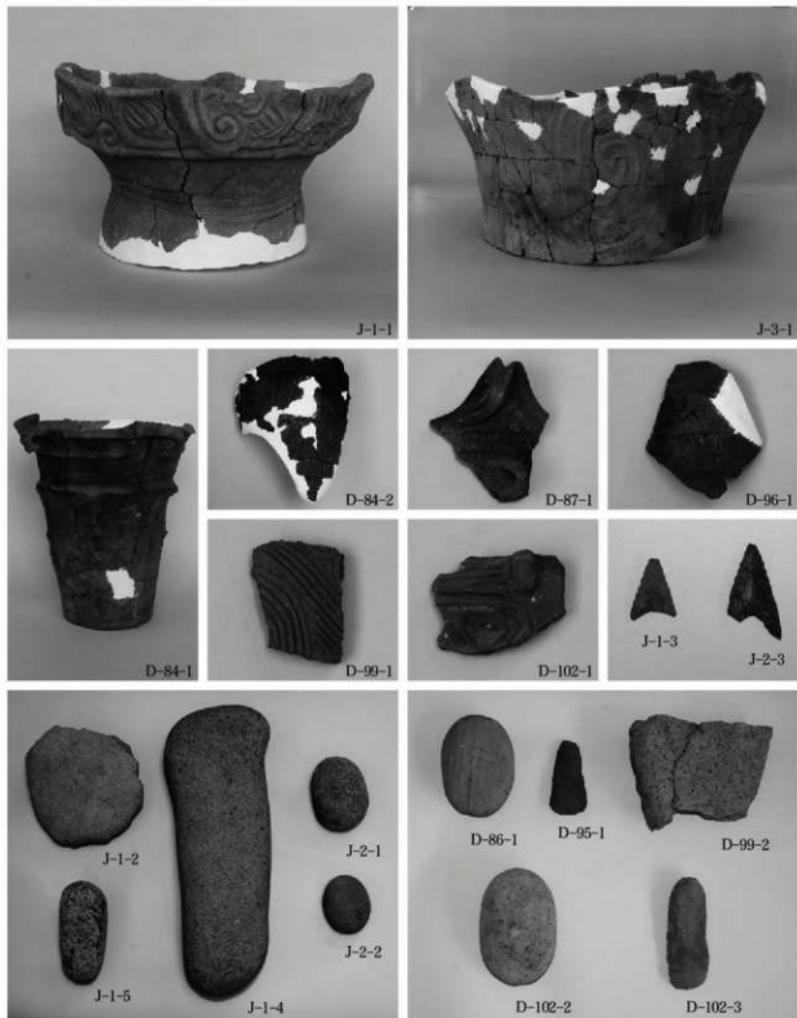
D-95号土坑焼石出土状況



D-99号土坑遺物出土状況



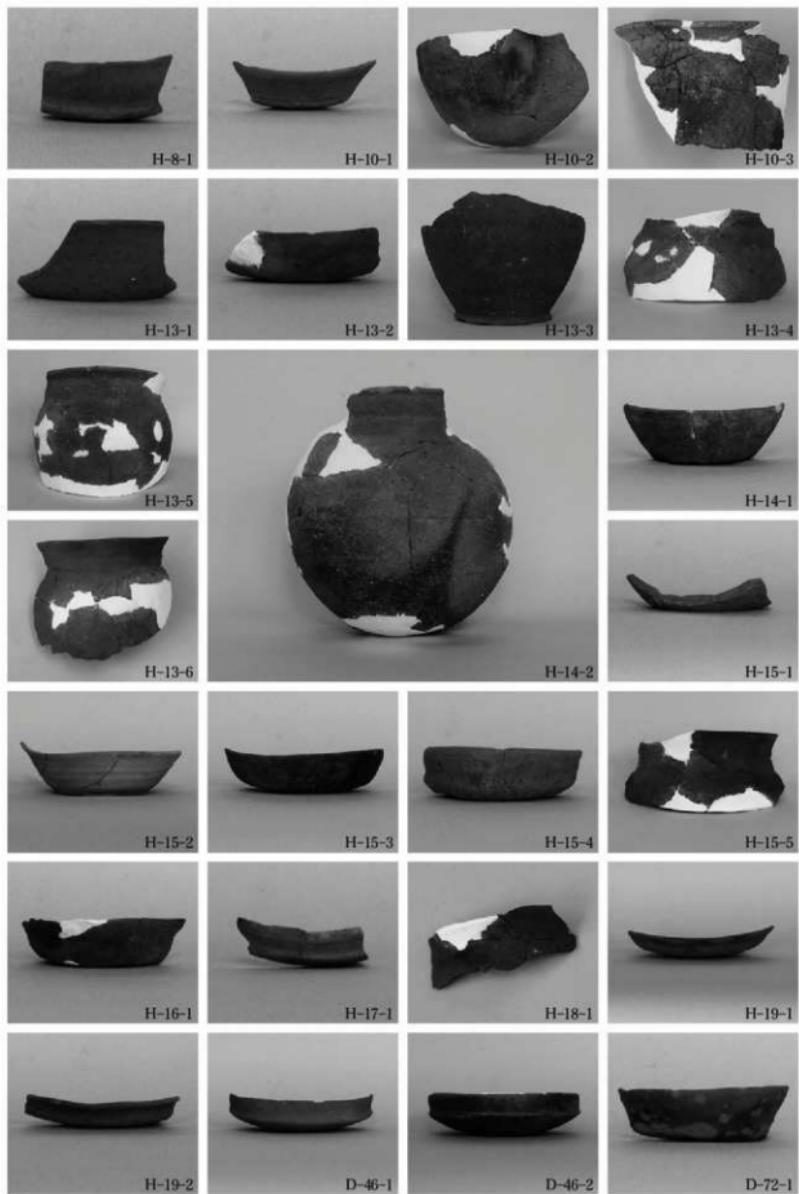
D-102号土坑遺物出土状況



図版10



図版11



抄 錄

フリガナ	ゴダイ ナンブ コウギョウダンチ イセキグン ゴダイ イセミヤ イセキ イチ
書名	五代南部工業団地遺跡群 五代伊勢宮遺跡(1)
副書名	道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	鈴木雅浩(前橋市埋蔵文化財発掘調査団) 権田友寿・山口和宏(スナガ環境測設株式会社)
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発行年月日	西暦2007年1月12日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 經			
五代南部工業団地 遺跡群	前橋市五代町 1086-1番地	10201	18C37	36°24'25"	139°06'53"	20060620 ～ 20070112	3,600m ²	道路改良工事
五代伊勢宮遺跡(1)								

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
五代伊勢宮遺跡(1)	集落跡	縄文時代 古墳時代 古墳時代以降 奈良・平安時代 平安以降～近代	堅穴住居跡 土坑 堅穴住居跡 堅穴状遺構 堅穴住居跡 掘立柱建物跡 溝跡 土坑	3軒 40基 9軒 2軒 12軒 2棟 10条 54基	縄文土器・石器 縄文土器・石器 土師器 土師器 土師・須恵器 土師・須恵器 縄文、土師・須恵器

五代伊勢宮遺跡(1)

2007年1月5日 印刷
2007年1月12日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三保町二丁目10-2
TEL 027-231-9531

編集 スナガ環境測設株式会社
前橋市青柳町211番地-1

印刷 朝日印刷工業株式会社

